

高教研年報

第 65 号

令和 7 年度

新潟県高等学校教育研究会

巻頭言「令和7年度高教研年報の発刊によせて」・・・・・・・・・・会長 平山 剛

令和7年度各部会事業報告

1 国 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 地理歴史・公民・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 数 学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4 理 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5 芸 術・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
6 英 語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
7 農 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
8 工 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
9 商 業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
10 水 産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	22
11 家 庭 科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
12 保 健 体 育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
13 情 報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
14 生 徒 指 導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
15 函 書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
16 視 聴 覚・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
17 定 通・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
〈研究会一覧〉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
令和7年度 理事会（書面審議）録・・・・・・・・	76
令和7年度 活動から・・・・・・・・・・・・・・・・	77
令和7年度 収入支出決算書・・・・・・・・・・・・	78
令和7年度 会計監査報告書・・・・・・・・・・・・	80
令和7年度 役員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	81
（ 理事・会計監査委員・ 委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事 ）	
新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・	84
令和7年度事務局日誌抄・・・・・・・・・・・・	88
編集後記 幹事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	89

巻頭言

令和7年度高教研年報の刊行によせて

新潟県高等学校教育研究会会長

(新潟県立新潟南高等学校長)

平 山 剛

新潟県高等学校教育研究会（以下、高教研）は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的として昭和23年(1948年)に設立され、長きにわたり、高等学校の教職員の研究・研修活動の一翼を担ってきました。今年度も、全17の部会（国語、地理歴史・公民、数学、理科、芸術、英語、農業、工業、商業、水産、家庭科、保健体育、情報、生徒指導、図書、視聴覚、定通）において、研修が行われ、様々な研究の成果が、この冊子に収められています。今年度の各部会の取組に対しまして、敬意を表したいと思います。

高教研の会員数は、ここ数年1,400人を下回っており、各部会の活動水準の維持が課題となっております。このことは、教員採用者数の減少やコロナ禍の影響等で、各部会の運営や研修に影響が出たことなどが考えられますが、今後、高教研の活動を一層推進していくためにも、より多くの教員に研究内容を周知し、会員数の増加を図っていくことが必要だと考えております。

教員は、その教職生涯を通じて学び続けるとともに、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、主体性を発揮しながら、個別最適な学び及び協働的な学びを実践することが求められています。また、使命感や責任感、教育的愛情等といった教職に必要な素養をはじめとして、学習指導や生徒指導、特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応、さらにはICT、情報・教育データの利活用についての資質・能力の向上が欠かせないものとなっております。採用から退職までの全ての勤務期間を通して、職責、経験及び適性に応じて教員がその資質・能力を向上させていくとともに、よりよい教育への意欲を高めるためにも、教員人生を通じて継続的な研修を行うことが大切だと考えています。

この高教研年報が、会員の皆様にとって、他の部会の取組を知るよい機会となり、大きな示唆を得ることにより、各部会の活性化、並びに会員相互の交流が図られることを期待しております。

本会員の皆様が、絶えず研修を行うことにより、自らの専門性を磨き、教科指導力を向上させることにより、本県生徒が、将来、社会でたくましく生きるための礎を築いていくことを願って、「刊行のことば」といたします。

国語部会

1 運営委員会

第1回運営委員会は、7月9日(水)に巻高等学校において実施しました。内容は令和6年度の事業報告、決算報告、令和7年度の事業計画と全県研究協議会について審議しました。全県研究協議会は参集型として、具体的な実施方法を検討することにしました。12名の運営委員から審議していただき、審議内容が承認されました。

第2回運営委員会は、1月29日(木)に白根高等学校において実施しました。令和7年度の事業報告、決算報告、令和8年度の事業計画等について協議し、12名の運営委員から審議していただき、審議内容が承認されました。

2 全県研究協議会準備委員会

- (1) 日時 令和7年11月14日(金)10:00~12:00
- (2) 会場 県立生涯学習推進センター ホール等
- (3) 内容 全県研究協議会の準備について
- (4) 参加者 国語部会役員等11名

3 全県研究協議会

- (1) 日時 令和7年11月14日(金)13:00~16:30
- (2) 会場 県立生涯学習推進センター ホール等
- (3) 参加者 46名
- (4) テーマ「学習指導要領を踏まえた授業づくり
～国語科における探究的な学びの
実践～」

(5) 実践発表

国際情報高等学校 山下 凜子 教諭
「ジグソー法を活用した探究的な学びの実践
～『史記』『剣舞』における語りの分析を
通して」

(6) 指導講評

県立教育センター指導主事 今井 大輔 様

(7) 講演

講師：上越教育大学教授 佐藤 多佳子 様
「その問いは文学をデザインする
～対話を核とした授業づくり～」

(8) 研究協議

山下凜子教諭の実践発表は、漢文教材『史記』『剣舞』を通じて、自分自身とのかかわりを説明できること、つまり「歴史の語り方」に着目した取組でした。その際、エキスパート活動やジグソー法を用い、生徒が他者との意見交換をしながら、自身の考えを深めていくという授業内容でした。また、生成AIを活用した実践は、有意義であり、参加者からとても参考になったという旨の多くの声が寄せられました。

その後、指導主事の今井大輔様からは、指導講評を賜り、国語授業の改善と指導力の向上をめざしてご指南がありました。また、「漢詩を用いた生成AI活用の試み」について情報提供もいただきました。

更に、上越教育大学佐藤多佳子教授より、「その問いは文学をデザインする～対話を核とした授業づくり～」と題して、学習指導要領の趣旨を踏まえながら、文学教材における具体的な捉え方等をおとした思考力・判断力・表現力の育成のあり方について、非常に示唆に富んだご講演を頂戴しました。結果、授業改善についての重要性を再認識する貴重な機会を得ることができました。



当日は、参加者からも多数の感想や質問が途切れることなく寄せられ、まさに充実した研究協議会となりました。これからも会員皆様よりご意見をお寄せいただき、活動に活かしていきたいと考えます。

4 刊行物

「国語研究」第72集では、6名の方から寄稿がありました。感謝申し上げますとともに今後のご活躍をご祈念いたします。令和7年度の事業にご理解・ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

地理歴史・公民部会

1 総会

期 日 令和7年7月4日(金)
会 場 新潟高等学校視聴覚ホール
議 事 (1) 令和6年度事業報告
(2) 令和6年度決算報告
(3) 令和7年度事業計画
(4) 令和7年度予算計画

2 研究協議会

期 日 令和7年7月4日(金)
会 場 新潟高校視聴覚ホール
発 表 「遠隔授業による授業実践」
発表者 園田 健太郎 教諭 (新潟翠江高等学校)
講 演 「高等学校における法教育の理論と実践」
講 師 小貫 篤 様 (埼玉大学教育学部)
参加者 36名

実践発表では、遠隔授業の配信環境を紹介しつつ、「ICTを活用した同時双方向型の「遠隔授業」」の具体が示された。講演では、高校生の法意識の現状を踏まえつつ、「価値」を学ぶ法教育と「技能」を学ぶ交渉教育を組み合わせた学習過程について理解を深めた。

3 地理研究会

期 日 令和7年8月4日(月)
会 場 新発田高等学校情報処理室
講 演 「地理院地図の基本的な操作方法」
「災害に備えるための地図とその活用」
講 師 国土交通省国土地理院
上村 海人 様
(地理空間情報部情報普及課)
大塚 力 様
(応用地理部専門調査官)

参加者 19名

講演では、基本的な地理院地図の機能の紹介

や、地図の活用法について説明を受け、地理院地図を活用した防災授業の有効性について理解することができた。その後、地理院地図等のGISソフトを利用した教材をグループごとに作成するワークショップを実施した。

4 公民研究会

期 日 令和7年11月28日(金)
会 場 万代高校コミュニケーションルーム
発 表 「自己の思考を『深める』『広げる』
手掛かりとしての倫理」
「食料問題を主題とした『ミニ探究』
の授業開発—説明主義社会科の理論を活用して—」
発表者 高岡 晶子 教諭 (新潟向陽高等学校)
小林 真也 教諭 (新津高等学校)
参加者 20名

研究会では「倫理」と「政治・経済」の実践発表が行われた。先哲の視点を身近な出来事に当てはめる学びや、説明主義社会科の理論を活用した問題発見・解決能力の習得を図る学びの実践が紹介され、公民科で求められる学びについて考えを深めることができた。

5 企画委員会

○第1回企画委員会 (1 総会と同じ)
○第2回企画委員会
期 日 令和8年1月29日(木)
会 場 新潟高等学校
議 事 (1) 令和7年度事業報告
(2) 令和7年度決算報告
(3) 令和8年度事業計画

6 刊行物

『地理歴史・公民研究』第64集
(令和8年3月末日発行)

数 学 部 会

1 全県研究会

(1) 数学教育研究会

期 日 令和7年7月23日(水)

場 所 アトリウム長岡

研究会テーマ

高等学校における数学教育の諸問題について

講 演

演 題 『未来を拓く高等学校数学の探究的な学び』

講 師 国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官
小林 廉 様

研究発表

テーマ 『実験データから体感する確率分
～二項分布と正規分布の関係～』

発表者 県立白根高等学校

教諭 長谷川 拓也

参加者 79名



【講師 小林廉調査官の講演】



【白根高校 長谷川教諭の発表】

(2) 地区研究協議会

期 日 令和7年11月18日(火)

場 所 新潟ユニゾンプラザ

研究テーマ

高等学校における数学教育の諸問題について

講 演

演 題 「連立1次方程式と二者択一の定理」

講 師 新潟大学理学部数学プログラム
教授 田中 環 様

研究発表

テーマ 『大学入試問題を題材に探究活動』

発表者 県立村松高等学校
教諭 武田 道広

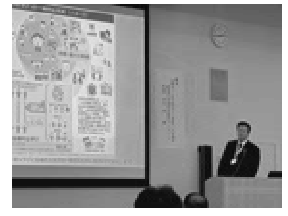
テーマ 『単元内自由進度学習&1時間内
自由由進度演習』

発表者 県立新発田南高等学校
教諭 松崎 大輔

参加者 80名



【新潟大学 田中環教授の講演】



【村松高校 武田教諭の発表】

2 会議

・ 数学部会代議員会

期 日 令和7年度7月23日(水)

場 所 アトリウム長岡

- 議 題 (1) 令和7年度数学部会役員
(2) 令和6年度事業・決算報告
(3) 令和7年度事業・予算案審議

出席者 71名

3 広報・研究成果の刊行

- (1) 令和7年度数学部会会員名簿の作成
(2) 「数学教育研究集録」第64号の刊行

理科部会

1 役員会

【1】第1回役員会

- 1 期 日 令和7年7月24日(木)
- 2 会 場 Web会議
- 3 参加者 19名
- 4 議 題 R6事業報告 決算報告
R7事業計画 予算案
役員改選 その他

【2】第2回役員会

- 1 期 日 令和8年1月30日(金)
- 2 会 場 Web会議
- 3 参加者 名
- 4 議 題 R7事業報告 決算報告
R8事業計画 予算案
その他

2 研究会

【1】物理教育研究会

- 1 期 日 令和7年11月14日(金)
- 2 会 場 新潟県立松代高等学校
- 3 参加者 15名
- 4 研究発表
 - (1) 遠隔授業における物理基礎の実践について
県立新潟南高等学校 小田部 悠
 - (2) デジタルセンサーを用いた授業実践
県立新津高等学校 西脇 新
 - (3) 音の定在波の腹節と音の大小
県立新潟中央高等学校 風間 睦勇
 - (4) ICTを活用した教材・教具の紹介
県立長岡大手高等学校 山本 岳
- 5 遠隔授業配信機器の見学
- 6 遠隔授業の見学(2年B組 物理基礎)
授業者: 県立村上高等学校 渡辺 峻
- 7 講 演
「翔べ夢をのせて
ーあきらめない!それが成功のカギー」
株式会社エアフォートサービス
会長 山崎 健吾 様



物理教育研究会の様子

【2】化学教育研究会

- 1 期 日 令和7年11月26日(水)
- 2 会 場 長岡市地域交流センターまちなかキャンパス長岡 301会議室
- 3 参加者 24名
- 4 研究発表・協議
 - (1) 探究的な学びと評価方法についての模索
糸魚川高等学校 片桐 明彩香
 - (2) 「探究の過程」を取り入れた中和滴定実験
長岡高等学校 石田 幸蒔
- 5 講 演
「先端 IT を活用した授業展開, 評価方法」
長岡技術科学大学 情報・経営システム系
教授 湯川 高志 様



化学教育研究会の様子

【3】生物・地学合同教育研究会

(日本生物教育会第79回全国大会新潟大会)

- 1 期 日 令和7年8月9日(土)
- 2 会 場 開志専門職大学
- 3 参加者 249名(高教研関係49名)
- 4 講 演
「昭和のフェアブル」を夢見た少年の足跡
北海道大学農学部昆虫体系学教室
教授 吉澤 和徳

- 5 口頭発表 31本(県内3本, 県外28本)
＜新潟県の発表者＞
 - (1) 新潟水俣病公式確認60年!原因究明に関与した地元高校教員
県立新潟翠江高等学校 帆刈 信
 - (2) T型ファージの模型と15万倍の世界
元新潟県立高校教諭 本間 巖
 - (3) キンヒバリが分布を拡大する方法に関する考察
元新潟県立高校教諭 本間 巖

- 6 ポスター発表 21本(教員11本, 生徒10本)

- ＜新潟県の発表者＞
- (1) 鮭の稚魚の体色変化～体色変化を数値化するには～
県立村上中等教育学校 生物部
 - (2) 鮭の稚魚の夏越えチャレンジから2歳4か月までの飼育記録
県立村上中等教育学校 生物部
 - (3) 家庭での納豆培養における醤油の効果
県立新潟中央高等学校 生物部
 - (4) 環境DNAを用いたサンショウウオの分布調査の試み
県立新潟田高等学校 自然科学部生物班
 - (5) ユキノシタからのメッセージ
県立新潟高等学校 生物部
 - (6) 銀杏ライフハック
県立新潟高等学校 生物部
 - (7) 新規の突然変異“パンダメダカ”の原因遺伝子はmpv17である
県立新潟明訓高等学校 生物部
 - (8) 苗場山の植生調査
県立新潟明訓高等学校 生物部

- 7 展示 11本(学校法人4、教科書出版社4、教育関連企業2、地方自治体1)

8 現地研修(8/10～12)

【県外参加者数+担当者数】

- A: 佐渡コース(2泊3日)【22+4】
- B: 魚沼コース(1泊2日)【15+5】
- C: 村上コース(1日)【9+5】
- D: 長岡日本酒コース(1日)【24+4】
- E: 新潟市・福島潟コース(1日)【13+3】
- F: 新潟市・古生物コース(1日)【19+3】



ポスター発表の様子



口頭発表の様子



現地研修(佐渡コース)の様子

芸術部会

1 総会・授業見学

・施設見学・研究協議会

期 日：令和7年6月23日（月）

会 場：県立新潟高等学校

内 容：

(1) 総会

議 事

- 1 令和6年度事業報告
- 2 令和6年度決算報告
- 3 令和7年度役員案、会員数
- 4 令和7年度事業計画案
- 5 令和7年度予算案
- 6 令和8年度について
- 7 芸術部会規約（確認）
- 6 その他

(2) 芸術科研究協議会・分科会

- ・音楽科
- ・美術科
- ・書道科

(3) 授業見学

- ・音楽Ⅰ 授業者 保科誠一郎 教諭
- ・書道Ⅰ 授業者 松本直美 教諭



2 各科目研修会・研究協議

■音楽科研修会・研究協議

期 日：令和7年11月27日（木）

会 場：りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館

内 容：①オルガン講習会

講師：濱野 芳純 氏

（りゅーとぴあ専属オルガニスト）



②研修協議会

今年度の音楽科研修会は、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団との共催で実施した。新潟の文化芸術発信の中心的な役割を担う、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館コンサートホールを会場とする研修会ということで、美術科や書道科の会員及び県内芸術科教員全体へ広く案内し、参加を呼びかけた。今回の試みは、分野を超えた交流と芸術科全体での学びの共有につながったものと思う。

研修のメインとなるオルガン講習会では、りゅーとぴあ専属オルガニストの濱野芳純様から、パイプオルガンの仕組みや歴史について図解や実演を交えながら分かりやすくご講義いただいた。多彩な音色を生み出すための精巧な仕組みや演奏技能の複雑さを間近で実感するとともに、社会の動向に沿ったオルガンの役割や変遷についても知ることができ、大変興味深かった。また、講習会の最後には、中学校の鑑賞教材として長年にわたり広く親しまれている『フーガ ト短調 BWV578』

（J.S. バッハ作曲）を濱野様が演奏してください、ホール全体に響く美しい音色に耳を傾ける至福のひとつを味わった。本研修会開催にあたり、熱心にご講義くださった濱野様、また、研修の趣旨に賛同いただき素晴らしい企画と会場をご提供くださった公益財団法人新潟市芸術文化振興財団の皆様に、この場を借りて御礼申し上げたい。

講習会後の研修協議会では、今後の研修テーマや県内音楽科の現状について情報共有を行った。音楽教育の新しい取り組みや、

持続可能な研究会の在り方について率直な話し合いを行い、次年度に向けた有意義な時間となった。参加者：17名

■美術科研修会・研究協議

(1) 第62回全高美工研2025新潟大会
実行委員会

期日：令和7年7月14日(月)

会場：高田城址公園オーレンプラザ

内容：・進捗状況確認
・分科会発表に係る準備等

(2) 第62回全高美工研2025新潟大会
“萌えよ！新潟「源流、そして実りへ
～美術、工芸教育の深化と広がり～」”

期日：令和7年8月21日(木)・22日(金)

会場：高田城址公園オーレンプラザ

内容：

【8月21日(木)】

- ・都道府県代表者会議
- ・研究協議会
- ・開会式
- ・総会
- ・次期開催地引継会
- ・情報交換会

【8月22日(金)】

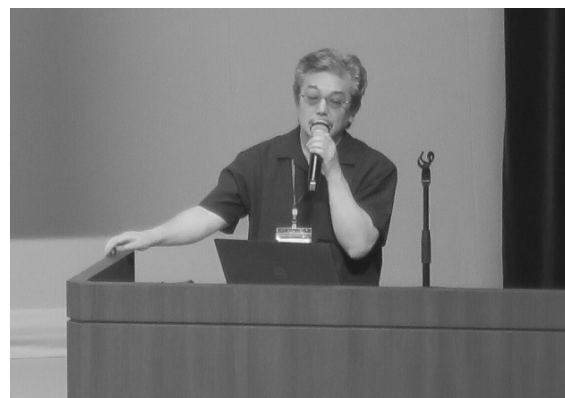
- ・記念講演
「使える美術」
講師 長沢 明 氏
(東北芸術工科大学教授)
- ・分科会
- ・閉会式

本大会では、全国の高等学校美術、工芸教育の充実と振興を図る目的の下、大会テーマ“萌えよ！新潟「源流、そして実りへ～美術、工芸教育の深化と広がり～」”により分科会発表、指導助言、基調講演を行った。



【開会式オープニングセレモニー
：高田高等学校合唱部による歌唱】

第1分科会「源流」～時代に左右されない価値～では、3名の発表者による実践発表と4名の文書発表を、第2分科会「実りへ」～激変する社会の中での美術教育～では、4名の発表者による実践発表と5名の文書発表を行った。全国から参集した高等学校美術、工芸教育関係者にとって、大変充実した研究協議となった。会場には発表者が持ち寄った生徒作品が並べられ、2名の助言者から指導助言をいただき、参加者は、今後の授業改善と教材研究に活かせるヒントを多く得ることができた。



基調講演では、東北芸術工科大学教授長沢 明 氏から「使える美術」という演題でご講演いただいた。大学での学びと社会との繋がりを中心に据え、美術の学びをとおして将来像を示すという、高大共通の目標に向けた働きかけについて、大学の授業や学生の取組の様子を交えた内容は、大変貴重であり、有意義な講演であった。

会場のオーレンプラザでは、美術系大学及び短期大学、専門学校、予備校、教材会社などにブース提供による教材等の展示を依頼し、情報交換を行うことができた。また、近隣の小林古径記念美術館との連携により美術館入場券をご提供いただき、参加者に地域が誇る文化財へ足を運んでもらうことができた。

大会は、遠方からの参加が困難なケースを考慮し、分科会、講演会のオンライン配信によるハイブリッド形式とした。また、2日間で過密な日程となったため、限定公開のアーカイブ配信期間を設定し、大会後にも参加者が研修を深められるようにした。これにより、全国の美術工芸教育研究の取組を十分に共有することができた。

■書道科研修会・研究協議

期日：令和7年11月18日（火）

会場：帝京長岡高等学校

内容：

（1）研究協議

令和8年度全日本高等学校書道教育研究大会

【北信越ブロック富山大会】について

- ・情報共有
- ・役割分担について
- ・令和8年度書道科研修会について
- ・その他

（2）実践発表

①授業見学

授業者：佐藤 栄里 教諭

「鑑賞 ～書道の伝統・文化に

親しむ態度の育成を目指して～」

対象生徒：普通科3年1,2組（6名）



【授業の様子】

全国的に有名な本県の偉人の一人である江戸時代後期の僧侶「良寛」を取り上げ、鑑賞の授業を行った。本時の授業に至るまでには、外部講師による特別授業「良寛とその周辺の人々」を実施しており、生徒は良寛の清貧な生き方など作品の背景についても学んでいる。

本時では、良寛作品「いろは」「一二三」の写真等を鑑賞したのち、半切2分の1の画仙紙に「いろは」を臨書し、感じたことや考えたことなどを発表し合い共有した。生徒からは活発な意見が多く出ていた。

令和5年度書道科研修会において、鑑賞をテーマとした「良寛バスツアー」を企画したが、その際に訪れた新潟市西蒲区の所蔵家の方のご厚意で特別に撮影させていただいた「いろは」の写真が、本授業内で鑑賞素材として活かされていたことは、生徒にとっても教員にとっても大変意義深い。



【生徒作品】

②授業検討

生徒に良寛の書を臨書させる意義や目的は何か、これを明確にすべき、という意見が出た。良寛の筆跡を辿り、良寛の息遣いを追体験させることで、生徒が何を感じるか。それが大きな学びとなる。

また、ICTの効果的な活用についても話題となった。

（3）研修会

参加者が各校で行っている授業実践から「私の一押し授業」（プリント類等）を持ち寄り、コンセプトや工夫している点、成果や課題などについて共有した。

また、令和8年度全日本高等学校書道教育研究大会【北信越ブロック富山大会】において本県から報告する「鑑賞レポート」について内容の確認を行った。



参加者：9名

英語部会

1 研修会

8月に夏季研修会、11月に全県研究協議会を、オンラインと対面を併用するハイブリッド形式で実施した。数年来この形式で開催しているため、運営も円滑になってきており、参加者の声や実施後のアンケート等から、参加者満足度も高く、価値のある研修機会を提供できたと考えている。

1) 夏季研修会

①実施日

8月7日(木) 10:00~16:00

②参加者

32名

③講師

新潟市立万代高等学校 ALT
エリオット・カーソン様

④講演テーマ

『English-rich な授業づくりのための Tips
～生徒を楽しく英語で学ばせるためのスキルアップ講座～』

⑤内容

午前の部では、参加者同士で4~5人のグループを作り、マイクロティーチングを実施した。先生役と生徒役を全員が経験することで、授業の狙い、活動、授業デザイン等の多様性に気づき、相互の実践から多くの学びを得ることができた。

午後の部では、参加者全員が生徒役になり、カーソン先生の授業を経験した。生徒が英語で前向きな気持ちで発言したくなる工夫や、生徒の興味・関心を引き出す授業デザインのコツ等を教わり、その後の実践につながる多くのヒントを得ることができた。

2) 全県研究協議会

①実施日

11月26日(水) 10:00~16:20

②参加者

57名

③講師

群馬大学共同教育学部講師
津久井 貴之様

④講演テーマ

『AI 活用時代の英語の授業に求められる指導・支援の在り方』

⑤内容

午前の部では、夏季研修に参加した会員数名から、夏季研修からの学びを活用した授業実践の報告があり、「多様な学校の実践を知る機会は貴重」「会員の実践発表があつて良かった」等の声があり、好評であった。

午後の部では、講師の津久井先生から、「これからの教師の役割はmediator(橋渡し役)である」という話があり、「AI 他様々な媒体と子どもたちの学びをどのように教師が橋渡しするのか」について、授業場面を想定した具体例と共に多くのヒントが示された。これからの英語教師の役割について理解すると共に、深く考えさせられる、非常に価値のある研修であった。

2 刊行物

「高教研英語部会誌 第70号を刊行」

(内容)・研修会報告

・実践報告

・その他

(事務局長 長谷川 誠 記)

農業部会

1 令和7年度

新潟県高等学校農業教育研究大会

新潟県立加茂農林高等学校

【大会スローガン】

「生徒の夢を創造し実現する農業教育の推進」

(1) 目的

新しい時代に対応した農業教育の実現に向けて、本県の農業及び農業教育が直面する課題について研究協議を行い、教職員の資質・能力の向上と農業・農業教育の発展・振興に資する。

(2) 日程

令和7年8月22日（金）

10：30～11：00 受付

11：00～12：00 開会式

12：00～13：00 昼食休憩

13：00～14：30 研究発表

14：50～16：20 講演会

演題「笑う門にはイモ来たる」

（株）農プロデュースリッツ 新谷梨恵子 様

16：30～16：50 講話

県立高田農業高等学校長 木村 和史

16：50～17：00 閉会式

当番校長挨拶

県立加茂農林高等学校長 村山 英司

(3) 会場

アトリウム長岡

長岡市弓町1丁目5-1

(4) 講演会

演題「笑う門にはイモ来たる」

（株）農プロデュースリッツ 新谷梨恵子 様

要旨

15歳で「農家の嫁」を志し、東京農業大学でサツマイモによる食糧問題解決を夢見た。縁あ



って新潟県小千谷市へ移住したが、夫は非農家。自ら農業法人で10年修業した後、10年前に起業した。当時、サツマイモの名産地ではない小千谷での起業や、農地を持たない形態は「前例がない」と否定されたが、2023年には内閣総理大臣賞を受賞するに至った。

学生時代の苦学やバイト経験から「物を売る楽しさ」を学んだ著者は、農業法人時代、全量農協出荷だったスイカの直販に挑戦し、1ヶ月で100万円を売り上げた。この経験から、農家が自ら価格を決定し、愛情を持って売る喜びを実感。一方で、生産者が加工・販売の全てを担う「6次産業化」の過酷さも痛感した。現在はプランナーとして、生産者が得意なことに集中できるように、官民連携や分業の仕組み作りを支援している。

「サツマイモで町おこしは無理」という心ない批判や、コロナ禍による店舗の打撃など、多くの困難に直面してきた。しかし著者は、「脳の85%は思い込み」という考えに基づき、ネガティブな予測を排除。看板商品「焼き芋ソフト」の特許取得や、ターゲットを絞った戦略的な発信（『マツコの知らない世界』出演等）により、全国展開を成功させた。「悩み抜くのではなく、脳が汗をかくほど考える」ことが、停滞を打破する鍵である。

現在はYouTubeやインターンシップを通じ、次世代の育成に力を注いでいる。雪国・小千谷の暮らしや規格外野菜の活用現場を若者に体験させ、「失敗や苦労こそが人生のネタになる」と伝えている。効率やデジタルが重視される時代だからこそ、人とのつながりである「義理・人情・恩義」を大切である。

人生はサツマイモと同じく、掘れば掘るほど宝（経験）が出てくる。失敗を恐れず挑戦し、熟成させていくことが尊い。

(5) 研究発表および研究協議

1) 地域創生活動を通じた新しい時代に求められる学力の育成

新潟県立長岡農業高等学校 教諭 鈴木 孝紀
要旨

長岡農業高校が、醸造の街として知られる長岡市撰田屋地区の活性化を目指し、新潟大学や地域組織「宮内撰田屋 method」と連携して取り組んだ教育実践の記録です。



活動の核となったのは、大学生が企画した体験型イベント「セッターニア 2024」への参加です。生徒たちはボランティアとして運営に携わるだけでなく、イベント後に大学教員や学生を招いたグループワークを実施。AI を活用したアンケート分析や大学生との討議を通じ、地域課題の解決策を自ら考えることで、当事者意識と「新しい時代に求められる学力」の育成を図りました。

事後分析では、体験活動が地域理解や行動意欲の向上に直結することが示され、次年度は企画段階から生徒が参画するツアーも始動しています。一過性の行事に留めず、高・大・地域が有機的に結びつく継続的な学習環境を構築することで、地域に貢献し、生徒の進路探究を深める有意義なモデルとなっています。

2) 令和7年度

第55回学校運営等研究協議会報告

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校 教諭 山本悠太
要旨

講演では、農業経営におけるDXとICT活用の重要性が示されました。

「経験や勘」という数値化できない技能を、デジタルツールを用いて数値化・可視化



することで、客観的な評価と経営改善が可能になります。特にデータ蓄積は、世代を超えた技術継承や将来のビッグデータ活用に資するため、教育現場でも早期に実践すべきとの提言がありました。

協議では、全国の農業高校が抱える共通課題と対策が共有されました。施設老朽化への予算確保や、ベテランから若手への技術伝承、教員不足への危機感が示される一方、魅力化に向けては、中学校側への理解促進やSNS活用、地域での農産物販売など多角的な手法が議論されました。

参加者からは、ICT活用による「データに基づく指導」の必要性を再確認するとともに、他校の先進事例を自校の課題解決や生徒募集に活かしたいという前向きな感想が寄せられ、教員自身が学び続ける重要性を共有する有意義な機会となりました。

(6) 講話

新潟県立高田農業高等学校 校長 木村 和史
要旨

私は一昨日、60歳、還暦を迎えました。31年間の教員生活を振り返り、私の思いをお話しします。私は教育学部出身の非農家で、農業とは遠い場所にいたからこそ、独自の視点で農業教育や進路指導に力を注ぎました。



特に大切にしてきたのはキャリア教育です。十日町総合高校時代に出会った江口君という生徒は、当初は「ちゃらんぼらん」でしたが、「筑波大に行きたい」という彼の言葉を信じ、共に歩みました。実家のユリを追って東京の市場まで取材に行き、NHKの番組にも挑戦しました。その経験が彼を変え、自信を持って挑み筑波大に合格し、現在は津南で1億円を動かす立派な農業経営者として活躍しています。

指導の鍵は「信じる事」から始めることです。機会は均等に、しかし個性に応じた個別の指導を粘り強く続けることで、生徒は驚くほど伸びます。私はこの世界から卒業しますが、今後は農業の応援団として歩むつもりです。若い皆さんも自分に限界を作らず、挑戦し続けてください。

2 令和7年度農業教育課題研究会

新潟県立新発田高等学校

(1) テーマ

「スマート農業に関する先進的な農業教育への導入」

(2) 目的

昨今教育現場への導入が進むDX(データサイエンスの内容を含む)について基礎知識を身につけ、農業分野への応用について理解を深めることで、農業教育の充実を図る。

(3) 日時 令和7年11月27日(木)

14:20~16:40

(4) 会場 県立新発田農業高等学校 会議室他

新潟県新発田市大栄町6丁目4番23号

(5) 日程

14:00~14:20 受付

14:20~14:30 開会式

14:30~16:30 講義,ドローンを使った演習

16:30~16:40 閉会式

(6) 講義および実演

要旨

講義および実演を通じて、国産ドローン開発を担う株式会社 NTe-Drone Technology の事業展開と、最新のドローン活用技術について知見を得た。

同社は2021年2月の事業開始以降、年間300~400台の国産ドローンを販売している。国産機を採用する最大の意義は、セキュリティ面にある。海外産機



体では飛行データの海外流出リスクが懸念されるが、日本製フライトコントローラーを搭載することでデータの安全性が担保される。また、AI技術の導入により、飛行データに基づいた継続的なアップデートが可能な点も大きな特徴である。

機体性能については、最大積載量8.0kg、飛行時間30分を確保しており、購入後7年間にわたる部品供給体制も整っている。操作面では、離着陸を含めた自動操縦がボタン一つで可能となるまで進化しているが、電柱や土木構造物周辺の微細な作業については、現在もマニュアル操作による対応を基本としている。

農業分野における活用では、衛星画像とAI分析を組み合わせた栽培管理支援システム「ザルビオ」との連携が注目される。この連携により、圃場の状況に応じた薬剤等の吐出量調整が可能となり、資材の無駄を大幅に削減できる。蓄積されたデータは10年間の保存が可能である。費用対効果の一例として、ザルビオとの連携によって反収が16%向上した事例(8.2俵から9.5俵への増加)が報告されており、精密農業における有効性が示された。

また、ドローンの多目的利用として、害獣対策専用の「クルナレーザー」を搭載した実証も行われている。これは緑と赤のレーザーで対象の痛覚を刺激するもので、10日間の照射によりカラスの個体数が減少する効果が確認された。ただし、動物側の「慣れ」が生じる懸念があるほか、照射中止から2ヶ月後には個体数が回復した事例もあるため、定期的な運用が不可欠である。運用上の課題としては、有効範囲である20m以内での低空飛行が必要となるため、機体の衝突リスクや人畜に対する身体的影響への配慮が挙げられる。

工業部会

機械・電子機械系 見学会

- 1 期 日 令和7年7月29日(火)
- 2 会 場 県立柏崎工業高等学校
会議室、機械加工(旋盤)実習室
- 3 参加者 14名
- 4 日 程
受 付 9:15 ~ 9:30
開会・日程説明 9:30 ~ 9:40
作業ポイント説明 9:40 ~ 10:10
大会見学 10:10 ~ 15:00

5 見学会

今年度は、参加校が少なくなっている全国工業高等学校長協会主催「高校生ものづくりコンテスト新潟県大会(旋盤作業部門)」の見学会を企画いたしました。

見学会に先立ち、このたび審査員を依頼しました県立三条テクノスクール統括主任指導員 榎本堅治様より、本大会の課題製作のポイントについて御講義いただきました。榎本様は、本県の機械科を御卒業後、民間企業に従事され技能五輪に参加されました。現在は、テクノスクールの指導員として若年者の技能伝承に励んでおり、指導された訓練生は技能五輪に出場しております。

榎本様は今回の課題の製作に限らず、旋盤での作業のポイントは2つあると考えておられます。一つ目は製作図面を見て作業工程を決めることが重要であると考えております。このような大会や競技会などにおいては、制限時間内に課題を完成させる必要があります。切削時間を短縮することはできないため、無駄な時間を省くことが大切になります。例えば、測定においては削り始めと仕上げ直前の2回に限定したり、段付きを切削する際の零点あわせは1箇所とし他の部分は目盛りで加工するなどの工夫が大切となります。そしてもう一つは、加工前に切削工具を決めておくことが重要だとしております。切削工具には、

スローアウェイやろう付など様々なものがありますが、その中で何を使ったら最も効率よく精度が良い加工ができるかをあらかじめ研究し、反復練習することが大切であるということです。

作業ポイントの説明の後、先生方からは大会の様子を見学いただきました。



説明会の様子



大会の様子

(記・県立柏崎工業高等学校 機械創造科 菊池 啓一)

土木研究会（講演・見学会）

1 期 日 令和7年9月26日（金）

2 会 場 講演

県立上越総合技術高等学校

測量実習室

研究協議及び現地視察等

駅北広場キターレ

3 参加校 5校（12人）

4 日 程

9:30～9:50 受付

9:50～10:00 開会式 校長挨拶

10:00～11:20 講演

11:30～13:30 糸魚川市へ移動・昼食

13:30～14:00 研究協議

14:00～14:50 講演

15:00～15:50 施設見学・現地視察

15:50～16:00 閉会式 解散

5 講演

「生徒が主体的に学ぶ課題研究等のあり方」

講師 国立大学法人 上越教育大学大学院

助教 山崎 恭平 様

私立義務教育学校 軽井沢風越学園の設立準備財団にご入職後、教諭としてプロジェクト学習等に携わられ、今年度より上越教育大の生活・健康領域技術分野にて教鞭を執られている山崎先生をお迎えして講演会を実施しました。

次期学習指導要領の基本的な考え方についての説明から、風越学園で実践されていた主体性を育む教育としての「探究学習」をご紹介いただき、共同探究者・探究支援者としての教師像をご提案いただくなど短時間ではありましたが幅広く貴重なお話を伺うことができました。

参加された先生方からは、失敗を恐れず挑戦する姿勢を育むことや教師自身が「探究者」として伴走することの重要性が学べたなどの感想が聞かれました。課題研究を進める際の

示唆となることが多く今後の授業改善や教育実践に活かしていきたいと思いました。

6 研究協議

各校の進路状況の説明後、測量実習における器械の指導方法等について協議を行いました。各校とも生徒の注意不足が散見されるため指導方法に更なる工夫が求められていることが浮き彫りとなりました。

7 講演・施設見学・現地視察

令和8年度に発生から10年を迎える糸魚川市大規模火災を学ぶため、大火の記録展示もある多目的交流拠点施設「駅北広場キターレ」を会場に、消防士として消火・救命活動にご尽力された長野 隆一様をお迎えし、ご講演の後、施設見学と現地視察を行いました。

講演は、被災者支援の仕組み、義援金や法制度の位置づけなど、現場を知る方ならではの興味深い内容でした。現地視察等では、道を一本隔てただけで被害の様子がはっきりと違うことがわかり、風向や道路幅員、既設の建物の影響などを現場の視点から説明していただき大変わかりやすく勉強になりました。

今後の防災教育や地域づくりを考える上で大変参考となり、学んだことを生徒へ還元していきたいと思いました。



現地視察の様子

（記・県立上越総合技術高等学校

土木防災科 松本 智）

化学系研究会（見学会・研究会）

- 1 期 日 令和7年9月26日（金）
- 2 会 場 三菱瓦斯化学（株）新潟工場
県立新潟工業高等学校
北斗会館
- 3 参加校 3校 （12人）
- 4 日 程
12：00～12：20 受 付
12：20～13：00 移 動
13：00～15：00 開会式
講 演・現場見学
三菱瓦斯化学(株)新潟工場
15：00～15：45 移 動
15：45～17：00 協 議・閉会式
北斗会館

5 講演・現場見学会

三菱瓦斯化学新潟工場では、豊富な水資源と新潟地区に埋蔵された天然ガスをベースとして独自で柔軟な技術力をもとに、未来を見据えた企業活動を展開しており、その歴史とともに多くの化学系の工業高校生を受け入れています。

新潟工場では国内外で生産される先端の電子機器をはじめとする多くの製品の素材や原料となる主力化学製品の生産を行っていますが、その一方で、従来の主力製品であったメタノールなどの基礎化学品の生産拠点とし



講演会の様子

での役割を終えています。

目下、新潟工場が取り組む最大のプロジェクトは、バイオマスやCO₂、廃棄物を原料にグリーンメタノールをつくり、カーボンニュートラルを目指す環境循環型メタノール（Carbopath™）です。今回、その実証プラントの詳細についてお聞きし、内部を見学させていただきました。



現場見学の様子

6 研究会

協議題

- (1) 令和7年度事業の報告
ものづくりコンテスト県大会、北信越大会等についての報告
- (2) 令和8年度事業計画
①日本工業化学教育研究大会大分大会 発表
②ものづくりコンテスト県大会
当番校 長岡工業高校の計画の確認
- (3) その他
次年度以降の各種行事の輪番、運営に関する確認とカリキュラム他に関する情報交換

県内のすべての化学系学科がくくり募集となった現在、専門科としての今後の在り方を考察するための、大変有意義な見学・研究会となりました。

（記・県立新潟工業高等学校 工業化学科

中村 聡）

建築研究会（研究会・見学会）

- 1 期 日 令和7年10月1日（水）
- 2 会 場 県立新潟県央工業高等学校
三条市一ノ木戸商店街
- 3 参加者 9名
- 4 日 程
10:00～10:30 受付
10:30～10:40 開会式
11:00～12:15 研究会（講演会）
13:30～16:00 施設見学会
16:00～ 閉会式 解散

5 研究会

「笑顔つどえる街を一空き家からひろがる地域の可能性ー」

講師：（一社）燕三条空き家活用プロジェクト
熊谷 浩太 様

（一社）燕三条空き家活用プロジェクトは、燕三条地域の空き家の流通・利活用促進・管理・予防に関する啓発活動を通じて、安全・安心なまちづくりと地域の活性化を目的に、2022年に設立した団体です。一ノ木戸商店街にある複合施設「三-me.」は、この団体がリノベーションした複合施設であり、この場所にて研究会を行いました。



講演会の様子

全国の空き家率（住宅戸数に対する空き家戸数の割合）は13.8%で年々増加の傾向にあり、三条市も同様の状況だそうです。倒壊や外壁脱落などの危険性があるものは特定空家

に指定され、所有者が管理責任を問われます。空き家を放置しないためにも三条市の空き家相談窓口を担当、空き家でイベントを行うなどしています。講話の中で、空き家を利活用する際に、建築基準法や消防法の規制が厳しく法との戦いになること。また、初期費用や運営を継続させるための体制づくりをお聞きすることができました。他にも、空き家見守りサービス「ITSUMO」、空き家残置物の販売「REYOO」など、団体の様々な取り組みを知ることができ、まちづくりや環境問題の視点からも考えることができました。

6 見学会

一ノ木戸商店街には空き家を活用した店舗や施設が多くあり、まちあるきを通して地域の方々と交流しながら活用事例の見学を行いました。若い地域プレイヤーが増えていくことで、学生のUターンの促進、地域の活性化・空き家問題の解決に繋がると感じました。



飲食店や古着屋が入る商業施設「tree」



地域と学生の交流拠点「ろくのわ」

（記・県立新潟県央工業高等学校
建設工学科 丸山 日登美）

電気・電子系研究会・見学会

- 1 期 日 令和7年11月27日(木)
- 2 会 場 東北電力ネットワーク株式会社
美沢事務所、城内事務所
- 3 参加校 7校 (13人)
- 4 日 程
9:00～9:30 受 付
10:00～10:05 開 会 (午前の部)
10:20～11:00 会社概要、変電所見学
11:30～12:00 配電工事現場の視察
12:00～13:20 移動・昼食休憩
13:20～13:30 開 会 (午後の部)
13:50～14:30 配電指令室、特殊車両
間接活線工法の見学
14:40～15:00 福利厚生の説明
15:00～15:50 研究会：意見交換会
15:50～16:00 閉 会

5 見学会

東北電力ネットワーク株式会社 長岡電力センター 配電管理課 鈴木達也 様より、会社の概要について説明をしていただき、施設内の設備を見学させていただきました。

変電所は発電所からの電気を変換し、適正な電圧で各需要家に分配します。また、電気事故が発生した際、設備を電力系統から分離して停電範囲を最小限にしています。

設備の広さや変圧器や設備の操作盤の大きさ、システムの優秀さに驚きました。



設備の見学の様子

配電工事現場、間接活線工法を拝見し、施工品質や安全確保のため特段の注意を払い作業していることが伝わってきました。低压需要家100件分の電力供給が可能な電源車など

を拝見し、重要な役割を担っていることを実感しました。



現場視察の様子 特殊車両見学の様子

普段の授業と異なり、具体的にどのような構造になっているのか、知識や技能がどのような形で必要であるのか、見たり触れたり五感を通して学ぶ貴重な経験となりました。

6 研究会

企業職員7名と参加者13名が「若年層社員の離職防止に向けた進路指導・採用活動の在り方について」意見交換会を実施しました。

生徒が就職先の選定で優先していることは何か、さらには就職後のミスマッチの原因を考えました。また、就業体験での経験が就職選定に与える影響を考えました。就業体験を上手く活用し、現場の実態を生徒に見て知ってもらい、離職防止に繋がると考えます。

生徒がイメージする企業像と入社後の実態のミスマッチを防ぎ、生徒が安心して就職活動に取り組めるよう、企業側と学校側が連携してサポートすることが大切です。



意見交換会の様子

この度の研究会・見学会の開催にあたり、ご多忙にも関わらず、ご協力をいただきました東北電力ネットワーク株式会社の皆様に深く感謝申し上げます。

(記・県立長岡工業高等学校 電気電子工学科 桑 裕介)

ロボット技術研究会（研修会）

- 1 期 日 令和8年1月14日（水）
- 2 会 場 長岡市さいわいプラザ
大ホール・和室

- 3 参加校 7校 （72人）

4 日 程

13：00～13：30	受 付
13：30～13：35	開会式
13：35～13：50	報告（長岡工業）
13：50～14：00	報告（新潟工業）
14：00～14：10	報告（上越総合）
14：10～15：30	技術交流会
15：30～16：15	講演会
16：15～	閉会式

5 研修会の概要

今年度のロボット技術研究協議会及び研究発表会は、長岡市中央公民館（さいわいプラザ）を会場として実施しました。

内容は、長岡技術科学大学と長岡工業高等専門学校の学生をお招きし、それぞれの活動やロボット技術についての講演と各高校生ロボット競技大会の研究発表についての2つの柱で開催しました。その後、各部門で技術交流会を行いより深くロボット技術研究協議を行うことができました。

6 講演会

今年度の講演会は、2校の上級学校より講演を頂きました。まず、長岡技術科学大学 ロボコンプロジェクトの五十嵐さんから、NHK学生ロボコンについて発表を頂きました。大学ロボコンの説明を頂き、日本で最も技術のあるロボットコンテストとして紹介され、その技術力の高さは、あらためて高校生のロボットコンテストとは違うと実感させられました。しかも、今年度は全国大会でベスト4と

技術賞を受賞したロボットを持参していただき、使用されているモーターや部品・リンクなどの構成を実際に見ることが出来とても参考になりました。また、発表中でロボット作る楽しさや完成までのスキルについても教えて頂きました。



長岡技術科学大学の取組

次に、長岡工業高等専門学校 ロボティクス部 小田さんから、高専ロボコンの取組について発表を頂きました。その後、交流会ではこちらも、大会に出場したロボットを持参して頂き、実際にロボットを動かして頂きました。高専のロボットも大きく実際に人を乗せて移動できます。使用されているモーターも高価なものが使用されており、回路も自分たちで設計したものを使用していて無駄なくロボットが動くようになっています。



長岡高専の取組

このようなロボットを実際に見ることが

でき、各校の生徒や先生方も新しい技術を知り取り込むことができました。

7 報告

ロボット部門では、今年度福島県で行われた第 33 回全国高等学校ロボット競技大会に出場した、長岡工業高等学校の取組について発表されました。

全国大会では、準優勝と 5 位・敢闘賞という素晴らしい結果が出た大会となりました。特に準決勝の死闘を勝ち抜き決勝に進出した緊迫感が伝わった発表でした。また、全国優勝したロボットの研究考察を行い、県内各高校へ技術情報の提供も行う事ができました。



研究発表会の様子

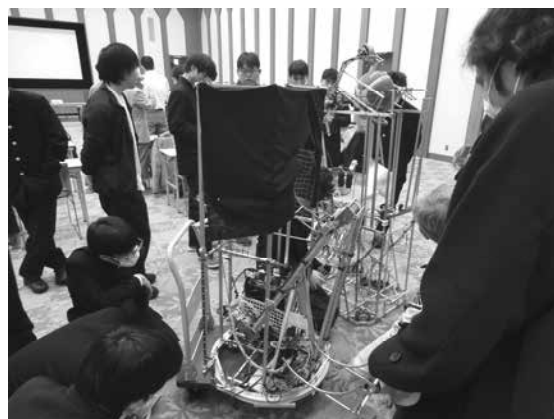
次にジャパンマイコンカーラリー2026 全国大会の様子や結果について新潟工業高校から報告して頂きました。大会が 1 月 10 日(土)、11(日)と終わったばかりであって、とても発表できる状況ではなかったのですが、何とか間に合わせて頂きました。全国大会に出場してきたという気概を感じる報告でした。結果は、柏崎工業高校も新潟工業高校も無事完走できたそうですが、来年度以降さらなる飛躍を期待したいと思います。

最後に第 32 回ソーラーラジコンコンテストの様子と結果を上越総合技術高校から発表をして頂きました。結果は、柏崎工業高校、

上越総合技術高校共に 4 回戦まで進出した。発表の中で両校の実際の走行動画を見せて頂き、各高校によって、それぞれの創意と工夫が感じられました。また、夏の屋外で行われるため、天候に大きく左右されるため経験とノウハウが必要なことが理解できました。

8 技術交流会

技術交流会は、ロボット、マイコンカーラリーの各部門に分かれて行われました。ロボット部門には長岡技術科学大学にも加わって頂き説明していただきました。



技術交流会の様子

9 おわりに

全国ロボット競技大会において長岡工業高校が準優勝と 5 位、新潟工業高校が 4 位と 7 位という新潟県のチームが大活躍する結果になりました。これは、もちろん各高校での努力があつての事とは思いますが、県内の先生方の連携やロボット技術研究協議会を通して技術の向上が図れていると思います。現在、県内工業高校におけるロボット関係競技への指導者不足になっていますが、この環境がある内に何とか次世代につながってほしいと願います。

(記・県立長岡工業高等学校

機械工学科 姉崎 健史)

商業部会

- 1 期 日 令和7年12月12日(金)
- 2 会 場 町家交流館高田小町
- 3 主 催 新潟県高等学校教育研究会
商業部会
- 4 当番校 新潟県立高田商業高等学校
- 5 御来賓 新潟県立教育センター
指導主事 服部 洋平 様
- 6 参 加 11校 (20名)
- 7 日 程

受 付	13:00~13:30
開 会	13:30~13:40
フィールドワーク	14:00~15:25
講 演	15:40~16:25
指導講評	16:25~16:35
閉 会	16:35~16:45

8 フィールドワーク

明治時代の町家を再生した町家交流館高田小町から徒歩で雁木通りを歩き、創業1844年、国の登録有形文化財に指定されている高野醤油味噌醸造店へ向かった。伝統的な町家づくりの店内および作業場の梁や柱には、そこでしか出せない醤油・味噌の味を決める酵母菌が付いていた。

手作業で行われていた天然醸造の醤油の絞り作業、はしごを登って大杉桶を見学し、代表の高野修様からご講演いただいた。



2025/12/12 高野醤油味噌醸造店 高野 修 様

創業1911年、営業している日本最古級の映画館である高田世界館では、支配人の上野迪音様より歴史や館内の施設、NPO法人になってからの活動についてご説明いただいた。修復に費用がかかり維持は大変だが、古くなる程に歴史的価値が高まる映画館を中心とした高田の街なみを活かした賑わいの創出に尽力されていた。

1950年代製造のフィルム映写機が並ぶ映写室を見学し、約100年前の無声映画をノスタルジックな雰囲気の中、鑑賞した。



2025/12/12 高田世界館 上野 迪音 様

9 講演

「観光について」

上越観光コンベンション協会

事務局次長 仙田 浩 様



2025/12/12 町家交流館高田小町 仙田 浩 様

- (1) 自己紹介
- (2) 観光とは
- (3) 観光を振興する目的
- (4) 観光を地域振興に
 - ①観光振興と地域活性化
 - ②観光交流人口拡大による経済効果
 - ③観光地の成長
観光産業による地域活性化は、その地域に住んでいる住民が、地元へ愛着を持つきっかけにつながる。
 - ④かわる観光スタイル
地域の歴史・文化・風習・生活などありとあらゆるものが観光資源になる。
 - ⑤地域資源の磨き上げ
 - ・地域にはたくさんの資源があるが、住んでいる人はそれに気づいていないことが多い。そのため、当たり前にある価値を疑うことが大切である。
 - ・地域に住んでいる人にとって当たり前に見えてしまう価値を外部からの視点によって、再発見することができる。
 - ・発見・再発見した資源は付加価値をつけることで、地域資源を磨き上げることができる。そして何よりも、発見・発信・活用・提供するための人材が必要である。

- (5) 観光の魅力
 - ・地域の歴史を知り造詣や知見を深めることができる。
 - ・価値観や生き方が変化し、人生の奥行きが深まって人間性を磨き高められていくことができる。
 - ・その土地の風土と文化が育む食材、食品があり、地域の息遣いとともに食を味わうことができる。
- (6) 観光振興の課題
 - ・低賃金、長時間労働による人手不足
 - ・施設の老朽化、感染症対策
 - ・SDG s への対応
 - ・オーバーツーリズム
 - ・大気汚染、ゴミ問題
- (7) 観光協会について
観光協会は公益的な観光資源を推進する目的で設立され、地域の観光事業者が資金を出し合い、行政の予算をもとに、一般的には行政や企業が単独では実施しづらい事業を実施している。
 - ①観光イベントやキャンペーン事業
 - ②観光パンフレットの作成・配布等の広報宣伝活動
 - ③観光客や教育旅行等の誘致に係る事業
 - ④観光案内所の運営 など
- (8) 仕事のやりがい
観光業界で働くやりがいや魅力はお客様に喜んでもらえることと、まちが変わることである。これからの次世代の人たちにもっと観光を通して地域へ愛着をもち、地域振興につなげてほしい。

10 指導講評

新潟県立教育センター

指導主事 服部 洋平 様

商業教育を通して地域貢献に励む生徒を育てることが、商業科教員のできる地域貢献ではないだろうか。次世代の若者たちに地元の観光を盛り上げてもらえるよう、日々の指導をお願いしたい。

水産部会

1 高等学校教育研究会水産部会

令和7年11月27日(木) 県立海洋高等学校を会場に高等学校教育研究会水産部会を開催した。

近年、大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要とされ、令和6年度より高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)が文部科学省により開始された。

この状況を鑑み、本年度は水産教育のDX化をいかに進めるかを研究することを目的とした。

2 出前講義「DXで何ができるか?入門から応用まで」

教育のDX化について、新潟大学創生学部の田中 一裕 教授及び熊野 英和 教授による出前講義を企画した。

田中教授は、かつて高等学校で地歴公民科を担当し、意思決定型授業の実践やICTを活用した教育の推進に取り組んできた経歴を有する。現在は新潟大学創生学部において、教育現場での経験を基盤としながら、デジタル技術を活用した学習の在り方について研究と教育活動を行っている。

創生学部は文系・理系を問わず入学が可能であり、学生が自ら課題を設定し、複数の専門分野を横断的に学びながら課題解決を図る点に特徴がある。こうした学部の特性もあって、田中教授のもとにはDXハイスクールに関する相談が寄せられることが多く、特に導入すべき機器やツールの選定に関する問い合わせが増加しているという。

講義ではまず、教育現場で活用可能な無料アプリケーションが紹介された。「Google

Form」は申し込みフォームやアンケートの作成に加え、論文データ収集のための調査にも利用でき、結果が「Google スプレッドシート」上で自動整理されるなど、教育活動の効率化に寄与する点が示された。

また、授業の双方向性を高めるツールとして「Slido」が紹介された。「Slido」は参加者からの質問を受け付けるオンラインサービスで、「すべての会議をインタラクティブにする」というコンセプトを掲げている。匿名での質問投稿、リアルタイム投票、クイズ、ワードクラウドによる意見の可視化など多様な機能を備え、授業や講演会における理解度の確認や質疑応答の効率化に役立つ。

さらに、情報共有ツールとして「Cosence(旧 Scrapbox)」も取り上げられた。「Cosence」は資料配布に適しているほか、グループ協議の結果を参加者全員で共有できる点が特徴である。複数人が同時に編集できるため、授業中の意見集約やディスカッションの記録、プロジェクト学習におけるアイデア整理など、協働学習の場面で活用しやすい。また、リンク機能を用いて関連情報を体系的に整理できることから、学習内容の可視化や知識構造の把握にも役立つ。一方で、管理者権限が全員に付与される仕様であるため、データの削除や編集に関する注意が教員・生徒両方に必要である。

続いて、生成AIを活用した教材作成や学習支援の具体例として「Google Notebook LM」が紹介された。「Notebook LM」には、ユーザーがアップロードした資料を自動的に整理・要約し、重要な情報を抽出する機能が備わっている。これらの資料をもとに学習指導案を生成させることが可能であり、指導内容に関する情報を50項目ほど与えたうえでプロンプトを入力すると、生成AIが学習

指導案を作成する。また、対談内容やパンフレットなどの資料を読み込ませることで、スライドや解説動画を生成することもできる。複雑な内容の説明や教員自身の学習、さらには、思考のプロセスを可視化して発想を広げるマインドマップの作成にも有効である。

加えて、画像生成 AI として「Firefly」、動画生成 AI として「SORA」、音声生成 AI として「コエステーション」、「音読さん」など、教育現場でも活用可能な生成 AI ツールが紹介された。ただし、音声生成 AI については声優が権利侵害を理由に裁判を起こした事例もあり、生成 AI の利用にあたっては、著作権や肖像権への配慮が求められることが示された。

次に熊野教授の講義を受けた。まず、「教育における DX」でどのような取り組みをしたらよいかを考える際、「生徒が解決すべき課題を明らかにして、その課題を解決する手段としてデジタル技術を活用する」という視点を持つことが重要であることが示された。

課題を解決するためのデジタル技術を学ぶ教材として「microbit」「littleBits」「MESH」が紹介された。これらは、LED・ボタン・センサー・無線通信などを搭載して、初心者でも直感的にプログラムを作って動かすことができる電子工作教材である。

機械学習モデルを誰でも簡単に作れる Web ツールとして、Google が提供する「Teachable Machine」が紹介された。これは、プログラミングの知識がなくても、画像・音声・姿勢データを使って AI モデルを作成できる。例えば、「画像分類モデル」は、カメラ画像を分類して表情認識、物体分類、ジェスチャー判定などをすることができる。この他に、音の特徴で分類する「音声分類モデル」や人の姿勢で分類する「姿勢分類モデル」も作成できる。

終わりに、生成 AI を使用する際の留意点を三つ挙げた。一つ目は、個人情報等の機密

情報の取り扱いである。生成 AI に入力された情報は生成 AI の学習に使用され、他のユーザーへの回答生成に利用される場合がある。入力した情報を学習に使用しないように設定することができ、この手法をオプトアウトという。

二つ目は、生成 AI を使用した生成物と著作権についての注意である。参考資料として、AI と著作権の関係について取りまとめた文化庁 web サイト「AI と著作権について」（<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>）が紹介された。

三つめは、生成 AI が生成する回答は、データ化されているものの中から確率が一番高いものを示しているだけだということである。つまり、データにならないことには対応しておらず、確率が低い他の可能性を捨てているということであった。

3 水産教育のDXをいかに進めるか

出前講義を受けた後、資源育成コース、食品科学コース、海洋技術コース及び海洋創造コースに分かれて、それぞれの専門分野で教育のDXをいかに進めるかについてグループ討議をした。グループ討議では、「Google スライド」を用いて一つのファイルを参加者全員で共有し、グループ間で意見を共有しやすくした。以下に挙げられた意見を示す。

資源育成コース

- ・栽培漁業実習棟のインターネット環境の整備。
- ・遠隔監視・操作による自動給餌、自動水質管理を行う設備の導入。
- ・生物餌料の自動計数技術の開発。
- ・自動化・機械化する一方で、生徒の水産増養殖の技術習得を妨げないよう留意する。

食品科学コース

- ・食品は調理・製造をすることが大切と感じるので、実習後のまとめに生成 AI を

活用する。

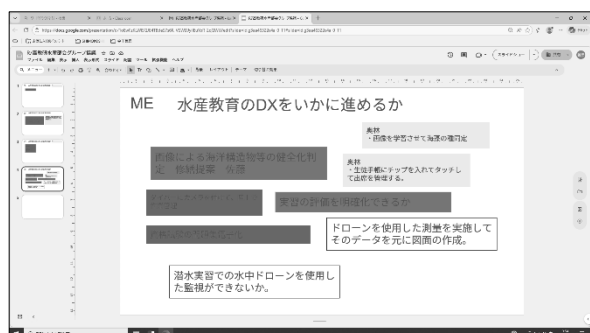
- ・出前授業等の台本を生徒が作成する際に生成 AI を活用する。
- ・HACCP の帳票の管理にデジタル技術を活用したい。
- ・電子工作教材を用いて pH、アミノ酸量等をモニタリングして発酵の管理をする。
- ・探究活動のテーマ設定や研究か行き詰った際に生成 AI を活用してみたい。

海洋技術コース

- ・船酔い体験装置の開発。
- ・操船時の注視点の映像化。
- ・バイ貝の種類判別・数量測定装置。
- ・海技士試験対策アプリの開発。

海洋創造コース

- ・IC タグによる生徒の出席管理。
- ・画像解析による海藻の同定。
- ・ドローン測量を導入する。
- ・水中ドローンによる潜水実習の安全監視。
- ・画像による海洋構造物等の健全性判定、修繕提案。
- ・潜水作業者にウェアラブルカメラを装着し、陸上での作業管理をする。



グループ討議に用いた Google スライド

家庭科部会

1 全県講習会

期日 令和7年8月4日(月)

会場 燕三条地場産業振興センターメッセ
ピア

講演1

「性差とジェンダーの多様性を考える」

講師 LGBTs 啓発活動団体 PRIDE LINK
代表 羽賀 風真 様

今日、LGBT や LGBTQ+ 等の言葉はかなり浸透してきている。LGBT の L はレズビアンで女性が女性を好きになること。G はゲイで男性が男性を好きになること。B はバイセクシュアルで自分が男性でも女性でも、どちらの性も好きになる両性愛のこと。T はトランスジェンダーで生まれた時の性別と心の性別が違うこと。私たちの団体名は LGBTs と小さく s がついており、性的マイノリティは LGBT だけで一括りにできないことを表している。他に、Q のクエスチョニングは性別が決まっていない人。A のアセクシュアルは同性にも異性にも恋愛感情を抱かない人。X のエックスジェンダーは自分を中性、両性、無性と感じている人。P のパンセクシュアルは好きになる人に縛りがない全性愛の人。そして H のヘテロセクシュアルは多数派といわれる異性愛者の人。ヘテロセクシュアルも、セクシュアリティの1つでしかない。LGBTs の性的マイノリティの割合は 8.9% いるそうだが、認知が広がることで年々増えている。また、性的嗜好や社会的性は揺れ動くものと言われ、日によって違う人もいれば、年齢を重ねることで変わってくる人もいる。

私はトランスジェンダー男性である。女の子として生まれたが、心の奥底に男の子の自分がいるような、不思議な感覚だった。中学生で初めて女の子に恋をした時「これはいけないことなのでは」と感じ、誰にも言えず自分を押し殺していた。高校生になり、FtM(Female to Male)

という言葉に出会い、自分のセクシュアリティを自認。母にカミングアウトした際「うん、知っていたよ」と言われ、すごく肩の荷が下りて安心感を得られた。制服のズボンへの変更、友人の今まで通りの対応等、周囲の理解に恵まれた一方で、トイレや授業等の男女分けに悩むこともあった。性的マイノリティの問題は不登校の背景に潜んでいることがあり、カミングアウトの難しさやアウティングの危険性も深刻である。誰かのセクシュアリティを第三者に漏らすことは、命に関わることもあると知ってほしい。

18歳で男性ホルモンの投与を始め、声や体に変化が現れた。副作用も経験し、治療のリスクを実感している。就職の際は、面接でカミングアウトをした。働きやすい環境に感謝しつつ、社会ではまだ大変な思いをしている人も多くいる。2022年に名前を正式に改名し、パートナーシップ制度を利用して結婚式を挙げた。新潟県全域で制度が導入され行政サービスの利用が可能になったが、法的拘束力はない。民間の認知も十分とは言えず、賃貸契約等で断られることもある。子どもを持ちたいと思って精子提供などの方法を模索しているが、環境が整っておらず、法制度の壁もあり実現していない。

日本は G7 で同性婚が認められていない唯一の国。教育の違いが背景にあると感じており、大切なのは LGBTs というラベルではなく、一人の人間として向き合うこと。性の多様性を知ること、誰かに手を差し伸べるきっかけになるかもしれない。教育現場にいる皆さんが、子どもたちの「違和感」や「悩み」に気づき、寄り添ってくださることを心から願っている。



講演 2

「出汁から広がる！おいしい暮らしと未来とSDGs」

講師 株式会社フタバ

代表取締役社長 江口 晃 様

株式会社フタバは 1953 年創業、三条市に本社を構える出汁メーカーである。全国約 90 社ある削り節メーカーの中でも、東日本に拠点を持つ数少ない企業として、鰹節を中心に多様な出汁製品を展開している。1960 年代にティーバッグ式のだしパックを業界に先駆けて開発し、家庭でも手軽に本格的な出汁が取れるようになった。現在は鰹節に加え、浅蜆、帆立、野菜等の出汁にも挑戦し、ビーガンやベジタリアン対応の商品も開発している。業務用を中心に外食産業や学校給食等へ提供しながら、一般消費者向けに「ON THE UMAMI」というカフェの展開もしている。そこでは、併設したアクアポニックス施設の見学、だしパックやふりかけ作り等親子で楽しめる食育活動も実施。また、三条市内の小中学校への出前授業で、鰹節の削り体験や出汁の飲み比べを通じて、子どもたちに「うまみ」の魅力を伝えている。他にも、行政と一緒に「減塩作戦」や「Let's! 和ご飯プロジェクト」、SDGs に関連した取り組みも行っている。

海外展開では、特にアジア圏を中心にグルテンフリーやハラール対応、各国の規制に合わせた商品開発を行っている。当社のホームページに研究結果をまとめたレポートが載っており、味認識装置やアミノ酸分析から分かったのは、「うまみ」には苦みや渋み、雑味が大きく関係しているということ。この結果が、新商品の開発に生かされている。

和食の基本である「出汁」は、食育に欠かせない。「人生を美味しく豊かにしてくれるものであり、未来へ継承し、世界へ発信していくべき日本の大切な文化」である。

(1) 質疑応答

(ア) 一番出汁の美味しい取り方を教えてい

ただきたい。例えば昆布を「沸騰させる直前に取り出す」とか「60℃で取り出すと良い」等いろいろな方法の中で、フタバさんが考える美味しい取り方を伺いたい。

○一番だし・・・水 2L、昆布 10g、うす削り鰹節 40g

①昆布を水につけて 30 分おく。

②火にかけ、小さな気泡が出たら昆布を取り出す。(温度的には 60℃。これ以上になると昆布の濁りやあくが出るので、60℃を守る。)

③鰹節を入れる。

④85℃で火を消し、2 分おいて静かにこす。(85℃を超えると、鰹節の濁りやあくが出る。)

○二番だし・・・水 2L、一番出汁で使った昆布と鰹節、追い鰹 10g

①全て鍋に入れて火にかける。

②沸騰したら弱火にして 10 分煮出す。静かにこす。

(イ) 現代における昆布、鰹節事情 (値段、収穫量、生産等)

○水揚げ量・・・年々減少 (要因: 環境 (温暖化による海面・海水温度の上昇)、資源の管理 (乱獲の禁止等)、漁業継承者の不足)

○鰹の相場・・・年々上昇 (2006 年 1 kg 100 円 ⇒ 2013 年 1 kg 2~300 円)

○鰹節の消費量・・・家庭で消費する金額は年々減少している。

(ウ) 若い年齢の人は出汁が身近になっているのか、離れているのか。

○消費量で考えると離れているのかもしれないが、インバウンド等で海外の若い人たちにとっては身近になっているのかもしれない。より若いときから、鰹節 (出汁、うまみ) を身近に感じてもらうため、フタバでは赤ちゃん用の出汁 (5 ヶ月用、7 ヶ月用等) もラインナップしている。

(エ) 外国における日本の出汁の実際

○海外の日本食レストランは 2013 年（ユネスコ無形文化遺産に和食が認定）から急増。日本へのインバウンドも急増したが、日本の人口減少や市場縮小を背景に、海外輸出へ力を入れている。海外は輸出の条件は厳しいが、出汁の「うまみ」が共通語として広まり、利用も増えている。海外では、一般家庭というよりは、主に日本食レストラン、たこ焼き屋、お好み焼き屋で利用されている。



2 研究成果の刊行

「家庭科研究第61号」発刊

新潟県高等学校教育研究会家庭部会、新潟県高等学校長協会家庭部会、全国高等学校家庭クラブ、全国高等学校家庭科技術検定などからの報告を集録。

保健体育部会

1 保健体育部会 全県研究会

期 日 令和7年12月10日(水)
会 場 新潟健康づくり・
スポーツ医科学センター
参加者 28名

【講演】

新潟県教育庁 保健体育課
副参事・指導主事 間 健太郎 様
指導主事 山田 耕平 様

「よりよい授業改善に向けて」
「令和8年度全国学校体育研究大会
新潟大会について」



【実践発表】

県立新潟商業高等学校
教諭 品田 貴恵子

「生徒が深く学ぶ楽しさや喜びを実感することができる保健授業の工夫」



2 全県養護教諭研修会

期 日 令和7年11月13日(木)
会 場 長岡市中央図書館
参加者 75名

【講演】

新潟医療福祉大学 心理・福祉学部
助教 木村 能成 様

「保健室で使えるグループセラピーや
メンタライジング」



3 刊行物

研究集録 第61集

研究会や講演会、実践発表の内容
を集録。新潟県高教研ホームページに掲載。

情報部会

1 情報教育研究会

場 所：オンライン開催

期 日：令和8年1月29日（木）

講演

演 題

「生成A Iは教育の敵か、味方か？

ー子どもたちの学びを深め、

先生の時間を創る方法ー」

講 師

長岡技術科学大学

情報・経営システム系

准教授 雲居 玄道 様

参加者：23名

2 研究成果

研究成果については情報部会HPに掲載する予定です。

生徒指導部会

1 全県委員会

第1回 日時 7月25日(金)
会場 県立巻高等学校 会議室
第2回 (書面審議)

3 刊行物

生徒指導部会誌 第58号
内容 研究内容・資料・部会活動報告
冊数 330冊

2 全県研究協議会

日時 11月7日(金)
会場 県立巻高等学校 会議室
内容 講演会及び研究協議

<講演会>

演題 「PBSの知見を活かした高校生の理解と支援」

講師 宮崎大学教育学部
教授 若林 上総 様

<研究協議>

「すべての生徒が安心して過ごせる学校づくり」



(講演の様子)



(研究協議の様子)

図書館部会

1 総会・講演会・研究協議会

2 刊行物

期日 令和7年8月7日(木)
会場 小千谷市ひと・まち・
文化共創拠点 ホントカ。
参加者 23名

『図書館部報』第69号

内容

【図書館部会総会】12:50～13:00

【講演】13:00～15:00

演題：〈あらし読み〉
～探究の入口となる新・読書術～
講師：あらし読み推進会
代表 牧 恵子 様

【館内ツアー】15:00～16:30

講演や議案等については、『図書館部報』を
ご覧ください。

視 聴 覚 部 会

1 視聴覚部会総会

期 日 8月18日(月)
会 場 長岡温泉湯元館
議 題

- (1) 令和6年度事業総括
- (2) 令和6年度決算報告
- (3) 令和7年度事業計画
- (4) 令和7年度予算及び中間報告

2 指導者研修の実施

(1) 春期講習会「iPadで動画編集と生成AI体験」

期 日 5月16日(金)
会 場 新潟情報専門学校
講 師 新潟情報専門学校 川崎 敬太 様
参加者 12人

(2) 夏期講習会

「番組制作&放送技術指導“面白い”がエネルギー」

期 日 8月18日(月)
会 場 長岡温泉湯元館
講 師 新潟工業高校 平倉 政弘 様
参加者 15人

(3) 視聴覚技術研修会

期 日 11月28日(金)
会 場 NST新潟総合テレビ
研修Ⅰ アナウンサーへの質問、放送局見学
NST新潟総合テレビアナウンサー
飛田 厚史 様

研修Ⅱ 「イベントをどう成功させるか
～プロが教える司会と演出～」

講 師 新潟お笑い集団NAMARA
大野 まさや 様

参加者 9人

(4) NHK校内放送指導者講座

期 日 12月26日(金)～27日(土)
現地講習 千代田放送会館(東京都)
オンライン 新潟県会場(長岡市)
内 容 校内放送指導実践報告、模擬審査等
参加者 現地講習1人 オンライン6人

※当部会はNHK校内放送指導者講座への参加を推奨しています。読みや番組の指導方法や審査技術を習得することができ、修了時には、NHK杯全国高校放送コンテストの審査員として認証する「審査員証」が交付されます。また、参加者には、NHK新潟放送局からの補助金による研修補助制度も有り、参加しやすいものになっています。まだ、受講経験の無い会員の皆様にぜひご参加いただきたいと思います。

3 コンテストの主催及び共催

放送コンテスト県内大会の主催および高文連放送専門部との共催を行い、大会の審査・運営を通して指導技術の向上を図っています。

また、日程・大会結果は、本部会刊行誌「視聴覚教育研究」に掲載します。

(1) 新潟県高等学校放送コンテスト(主催)

6月7日(土) 参加者21人

(2) QK杯新潟県校内放送コンクール(共催)

11月9日(日) 参加者20人

※参加者数は参加教職員数

4 刊行物

名 称 視聴覚教育研究 第63号
発行日 令和7年度末
部 数 40冊
内 容 実践報告
コンテスト結果と事業報告
視聴覚部会規約
高等学校教育研究会規約
その他

定 通 部 会

I 新潟県高等学校定時制通信制教育総合研究会

期 日 令和7年7月29日（火）

当番校 開志学園高等学校

会 場 内野まちづくりセンター

主 題 「未来に向かって生徒の可能性を
拓く定時制・通信制教育の推進」

1 令和6年度県外視察報告

県立長岡明德高等学校

2 研究発表

①学習指導 県立新潟翠江高等学校

②特別支援教育 県立高田南城高等学校

3 指導助言

高等学校教育課指導主事 小山 尚之様

4 講演

演題「ともに学ぶ、ともに生きる」

講師 新潟市教育委員会 特別支援教育課
指導主事 齋藤 いずみ 様

II 役員会総会・理事会

<第1回>

期 日 令和7年5月13日（火）

形 式 Web会議ツール「Zoom」を活用し
たオンライン開催

議 事 令和7年度役員の委嘱について

報 告 令和6年度活動報告

令和6年度会計報告

協 議 令和7年度活動計画（案）

令和7年度会計予算（案）

高教研定通部会役割分担（案）

令和6年度定通総研実施計画と

当日の役割分担（案）

<第2回>

期 日 令和8年1月30日（金）

形 式 Web会議ツール「Zoom」を活用し
たオンライン開催

報 告 令和7年度事業報告

令和7年度決算中間報告

協 議 令和8年度事業計画（案）

令和7年度会計予算（案）

高教研定通部会役割分担（案）

III 各校情報交換会

期 日 令和7年11月19日（水）

当番校 県立荒川高等学校

会 場 県立荒川高等学校

参加校 県内定通部加盟校13校

内 容 教務、生徒指導、進路指導等
について

IV 県外視察

期 日 令和7年10月17日（金）

視察校 東京都立立川緑高等学校
東海大学付属望星高等学校

派遣校 新潟市立明鏡高等学校
長岡英智高等学校

V 刊行物

実践集録62号 デジタルデータにて発行

令和8年2月吉日 発行

研究会・講習会等の開催	目 的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	令和7年7月9日(水)	令和7年11月14日(金)	令和8年1月29日(木)
	場 所	巻高等学校	県立生涯学習推進センター(ホール)	白根高等学校
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ	今年度計画及び全県研究協議会の実施について	「学習指導要領を踏まえた授業づくり～国語科における探究的な学びの実践～」	今年度活動の反省 次年度活動計画
	「講演テーマ」		「その問いは文学の授業をデザインする～対話を核としたとした授業づくり～」	
	講 師 職 氏 名		上越教育大学教授 佐藤多佳子	
	研究発表 テーマ・職・氏名		① 実践発表 「ジグソー法を活用した探究的な学びの実践～『史記』「剣舞」における語りの分析を通して」 国際情報高等学校 教諭・山下凜子 ② 指導講評 県立教育センター 指導主事・今井大輔	
参加者数	12名	46名	12名	
研修分野の分類	②	②③④	②	
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名冊数	特になし		
刊行物 研究成果 出版	名 称	『国語研究』第72集		
	主 な 内 容	各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 国語部会 令和8年度事業計画（案）
部長 坂元 淳子

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期 日	6月中旬	11月下旬	令和9年1月下旬
	場 所	未定	未定	未定
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会 の実施計画	「学習指導要領を踏 まえた授業づくり ～国語科における 探究的な学びの充 実に向けて～」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講 師 職 氏 名		講師未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名		発表者未定（1名） 指導主事講評 県立教育センター 指導主事	
参加者数	12名	約70名	12名	
研究分野の分類		②	①②③④⑤⑥	②
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名数	特になし		
刊研究 物成 果版	名 称	『国語研究』第73集		
	主 な 内 容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊 数	200冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 地理歴史・公民部会 令和7年度事業報告書

部長 山田 喜昭

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の学習指導要領及び大学入学共通テストに関する研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展充実をはかる。		
	期日	7月4日(金)	8月4日(月)	11月28日(金)
	場所	県立新潟高等学校	県立新発田高等学校	新潟市立万代高等学校
	研究会名称	研究協議会	地理研究会	公民研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「高等学校における法教育の理論と実践」	「地理院地図を授業でどう活用するか～基礎から応用まで～」	「高等学校公民科の各科目におけるコンピテンシーの育成について」
	講師職氏名	埼玉大学教育学部 准教授 小貫 篤 様	国土交通省国土地理院 地理空間情報部情報普及課 上村 海人 様 応用地理部専門調査官 大塚 力 様	—
	研究発表 テーマ・職・氏名	新潟翠江高等学校 園田 健太郎 教諭	—	新潟向陽高等学校 高岡 晶子 教諭 新津高等学校 小林 真也 教諭
参加者数	36	19	20	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	④①②③	⑦②④	③④	
調査研究	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購図書	図書名・冊数			
刊行研究成果版	名称	『地理歴史・公民研究』第64集(令和8年3月末日刊行)		
	内容	<p>【研究会報告】研究協議会(小林真也、富澤悠太)、地理研究会(星加美希、吉田行香)、公民研究会(三國稔男)</p> <p>【研究論文】「ソヴィエト連邦の人々が語ったヒロシマ・ナガサキースヴェトラーナ・アレクシエーヴィチのオーラル・ヒストリー」(中村崇志)</p> <p>【地歴公民の広場】「久しぶりの進学指導を終えて」(川合克彦)、 「世界史探究の実践記録」(柳澤敏雄)、「ロイロ認定ティーチャー取得について-申請プロセスと体験談-」(加藤直樹)</p> <p>【大学入学共通テストに向けた取組みと振り返り】「地理」(堀川裕貴子、中野理恵)、「歴史」(小林智弘)、「公民」(佐藤良太郎)</p> <p>【部会細則及び研究紀要投稿規定】【部会通信】</p>		
	冊数	260冊		

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 地理歴史・公民部会 令和8年度事業計画（案）

部長 山田 喜昭

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民科の学習指導要領及び大学入学共通テストに関する研究を推進し、地理歴史・公民科教育の発展充実をはかる。	
	期日	7月3日（金）	11月（予定）
	場所	（県内高等学校）	（県内高等学校）
	研究会名称	研究協議会	歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「Well-beingをめざす 地理教育」（仮） （未定）	
	講師職氏名	筑波大学 名誉教授 井田 仁康 様	
	研究発表 テーマ・職・氏名	「フィールドワークに出かけよう ー身近な地域のミニ巡検について 考える」 （県内高校教諭） （未定）	
参加者数	40	30	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	④①②③		③④
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名数		
刊行研究成果 出版	名称	『地理歴史・公民研究』第65集 （令和9年3月末日刊行予定）	
	主内容	「研究論文・実践報告」「私の教材紹介」「地歴公民の広場」 「大学入学共通テストに向けた取組みと振り返り」	
	冊数	130冊（予定）	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 数学部会 令和7年度事業報告書

部長 小林 英明

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日	7月23日(水)	10月	11月18日(火)	
	場所	中越地区 (アトリウム長岡)	上越地区	下越地区 (新潟ユニゾンプラザ)	
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会 ※日本数学教育学会全国大会が北陸開催のため中止	地区研究協議会	
	研究会テーマ	高等学校における数学教育の諸問題について		高等学校における数学教育の諸問題について	
	講演	テーマ	「未来を拓く高等学校数学の探究的な学び」		「連立1次方程式と二者択一の定理」
		講師職・氏名	国立教育政策研究所教育課程調査官・文部科学省教科調査官 小林 廉 様		新潟大学理学部数学プログラム 田中 環 教授
	研究発表	テーマ	「実験データから体感する確率分布 ～二項分布と正規分布の関係～」		「大学入試問題を題材に探究活動」「単元内自由進度学習&1時間内自由進度演習」
		発表者職・氏名	県立白根高等学校 長谷川 拓也 教諭		村松高校 武田 道弘 教諭 新発田南高校 松崎 大輔 教諭
	参加者数	79名		71名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①, ②, ③		①, ②, ③		
研究調査	主要テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学力向上のための意欲を引き出す指導について ・数学の指導におけるICTの活用及び指導と評価の一体化について 			
	調査の期日 場所・参加者数	各県内高等学校			
購図書	図書名 冊数	なし			
研究物出版	名称	「数学教育研究集録」第64号			
	主な内容	会員の実践研究, 研究大会報告及び講演内容			
	冊数	230冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 数学部会 令和8年度事業計画（案）

部長 小林 英明

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日	7月	10月	11月または12月	
	場所	中越地区	上越地区	下越地区	
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	地区研究協議会	
	研究会テーマ	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	高等学校における数学教育の諸問題について	
	講演	テーマ	未定	未定	未定
		講師職・氏名	新潟大学理学部教授等	大学教授等	大学教授等
	研究発表	テーマ	未定	未定	未定
		発表者職・氏名	未定	未定	未定
	参加者数	80名（予定）	80名（予定）	80名（予定）	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①, ②, ③	①, ②, ③	①, ②, ③		
研究調査	主要テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・数学力向上のための意欲を引き出す指導について ・数学の指導におけるICTの活用及び観点別評価について 			
	調査の期日 場所・参加者数	各県内高等学校			
購入図書	図書名数	未定			
刊行物成果出版	名称	「数学教育研究集録」第65号			
	主内容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容			
	冊数	230冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する		
	期 日	7月24日(水)	8月9日(土)	
	場 所	Web会議	開志専門職大学 紫竹山キャンパス	
	研究会名称	第1回役員会	日本生物教育会 第79回全国大会新潟大会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	R6活動計画 R7予算案	地域の自然から学ぶ生物教育	
	講師職氏名		北海道大学農学研究員基礎 研究部門生物資源化学分野 准教授 古澤 和徳 氏	
	研究発表 テーマ・職・氏名		「新潟県水俣病公式確認60年！原因究明に 関与した地元高校教員」 県立翠江高等学校 帆刈 信 「T型ファージのモデルと15万倍の世界」 元県立高校教諭 本間 巖 「キンヒバリが分布を拡大する方法に 関する考察」 元県立高校教諭 本間 巖	
	参加者数	19名	249名	
	期 日	11月14日(金)	11月26(水)	1月30日(金)
	場 所	新潟県立 松代高等学校	長岡市地域交流センター まちなかキャンパス	Web会議
	研究会名称	物理研究会	化学研究会	第2回役員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「翔べ夢をのせて —あきらめない！それが成功のカギ—」	「先端ITを活用した 授業展開，評価方法」	R7各種報告 R8活動計画
	講師職氏名	株式会社エアフォート サービス 会長 山崎 健吾	長岡技術科学大学 教授 湯川 高志	
	研究発表 テーマ・職・氏名	遠隔授業における物理 基礎の実践について 新潟南高等学校 小田部 悠 ほか3名	探究的な学びと評価方法 についての模索 糸魚川高等学校 片桐 明彩香 「探究の過程」を取り 入れた中和滴定実験 長岡高等学校 石田 幸蒔	
	参加者数	15名	24名	22名

研究調査	主 要 テ ー マ	研究会の推進
	調査の期日場所・参加者数	令和7年度全国理科教育大会・第96回日本理化学協会総会視察 令和7年8月7日（木）～9日（土） 岩手県盛岡市、アイーナ（いわて県民情報交流センター） 視察者 中村 公紀、北畑 雄一郎 2名
図書	図 書 名 ・ 冊 数	
刊 行 物 研 究 成 果	名 称 ・ 内 容 ・ 冊 数	理科研究集録第65号 10冊 +デジタルデータ作成

高教研 理科部会 令和8年度事業計画（案）
部長 伊藤 大助

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する		
	期日	6～7月	8月4日、5日、6日	
	場所	Web会議	三条市立大学（三条市上須頃）	
	研究会名称	第1回役員会	令和8年度全国理科教育大会 第97回日本理化学協会総会新潟大会 （物理・化学・生物・地学合同研究会）	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	活動計画 予算案	「探究心を育む理科教育」 －地域産業との連携で探る、新たな価値の創造に向けて－	
	講師職氏名		三条市立大学 学長 アハメド・シャハリアル 氏	
	研究発表 テーマ・職・氏名	/		
	参加者数			
	期日	1月下旬 までに		
	場所	Web会議		
	研究会名称	第2回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	各種報告 活動計画		
	講師職氏名			
	研究発表 テーマ・職・氏名			
参加者数				
調査研究	主要テーマ	研究会の推進		
	調査の期日場所・参加者数	未定		
図書	図書名・冊数			
刊行物 研究成果	名称・内容・冊数	理科研究集録 第66号 10冊 （会員へはデジタル配信）		

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる
	教科	全体（音楽、美術・工芸、書道）
	期日	令和7年6月23日（月）
	場所	県立新潟高等学校
	研究会名称	芸術部会総会研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	<ul style="list-style-type: none"> ・総会 ・研究協議 ・授業見学 ・分科会
	講師職氏名	
研究発表 テーマ・職・氏名	<ul style="list-style-type: none"> ・授業見学 県立新潟高等学校 保科誠一郎 教諭（音楽） 松本 直美 教諭（書道） ・研究協議、分科会 【音楽】「令和6年度芸術系教科等担当教員等全国研修会」参加報告 県立三条東高等学校 森 有希子 教諭（音楽） 【美術】「全高美工研2025新潟大会」準備について 【書道】「令和6年度芸術系教科等担当教員等全国研修会」参加報告 県立新潟高等学校 松本 直美 教諭（書道） 「令和8年度 第51回全日本高等学校書道教育研究会富山大会」 準備について 	
参加者数	35名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①、②、③、④、⑥	
研究調査	主要テーマ	「新しい芸術教育の取組について」 「持続可能な研究会のあり方について」
	調査の期日 場所・参加者数	「新しい芸術教育の取組について」 「持続可能な研究会のあり方について」 「全国の研究会のブロック開催の運営について」 第50回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会【近畿ブロック開催】8月21日～22日、和歌山市、参加者3名 各高等学校において日常的なテーマとして研究し、各科研修会にて情報共有する（場所・参加者数は上記を予定）
図書購入	図書名数	なし
刊行物出版 研究成果	名称	2025 新潟大会冊子（美術）報告をまとめ、HPに掲載する
	主な内容	2025 新潟大会報告（美術）実践報告等
	冊数	2025 新潟大会冊子（美術）600部

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 芸術部会 令和7年度 事業報告書

部長 小堺 さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる			
	教科	音楽	美術・工芸		書道
	期日	11月27日(木)	7月14日(月)	8月21日(木) 8月22日(金)	11月18日(火)
	場所	新潟市民芸術文化会館	市民交流施設 高田城址公園オーレンプラザ	市民交流施設 高田城址公園オーレンプラザ	帝京長岡高校
	研究会名称	音楽科研修会	美術・工芸科研究協議会	第62回全国高等学校 美術、工芸教育研究大会 2025新潟大会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「オルガン講座」	全高美工研2025新潟大会 実行委員会	全高美工研2025新潟大会 萌えよ!新潟「源流、そして 実りへ～美術、工芸教育の 深化と広がり～」 講演テーマ 演題「使える美術」	第51回全日本高等学校 書道教育研究会富山大会 に向けて 「書道でウェルビーイング ～より良く学び、生きる ために書道教育はどのように 貢献できるのか～」 ・分科会発表 ・研究協議、検討会
	講師職氏名	濱野 芳純 (りゅうとび専属オルガニスト)		長沢 明 (東北芸術工科大学教授)	
	研究発表 テーマ・職・氏名	りゅうとび専属 オルガニスト 濱野芳純様による講義 ・オルガンの仕組み ・オルガンの歴史 ・オルガン音楽について 他	・分科会に係る準備について ・申込状況及び各部の 計画進捗状況確認 ・大会予算について 他	8月21日(木) ・都道府県代表者会議 ・開会式・総会 8月22日(金) ・記念講演 ・分科会 ・指導助言 上越教育大学教授 松尾 大介 元小林古径記念美術館館長 宮崎 俊英 ・閉会式	・分科会にかかる準備 について 研究発表 帝京長岡高校 佐藤栄里 教諭 ・鑑賞レポートの実施 について ・私の一押し授業に ついて
参加者数	17名	17名	341名(全国)	9名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマ を先頭に	①、⑤、⑦	①、②、③、④、⑥、⑦		①、②、③、④、 ⑥	
研究調査	主要テーマ	「新しい芸術教育の取組について」 「持続可能な研究会のあり方について」			
	調査の期日 場所・参加者数	「新しい芸術教育の取組について」 「持続可能な研究会のあり方について」 「全国の研究会のブロック開催の運営について」 第50回全日本高等学校書道教育研究会和歌山大会【近畿ブロック開催】8月21日～22日、和歌山市、参加者3名 各高等学校において日常的なテーマとして研究し、各研修会にて情報共有する(場所・参加者数は上記を予定)			
図書購入	図書名 冊数	なし			
研究 刊行物 出版	名	2025 新潟大会冊子(美術) 報告をまとめ、HPに掲載する			
	主な内容	2025 新潟大会報告(美術) 実践報告等			
	冊数	2025 新潟大会冊子(美術) 600部			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 芸術部会 令和8年度 事業計画 (案)

部長 小堺 さとみ

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術	書道	
	期日	6月中旬	11月下旬	8月	11月下旬	
	場所	中越地区	未定	未定	上越地区	
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術科研修会	書道科研修会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	・総会 ・研究協議 ・分科会	「音楽教育における 著作権講座」	高大連携実技研修会 (予定)	・第51回全日本高等学校 教育研究会富山大会 報告 ・鑑賞	
	講師職氏名	/		未定	/	
	研究発表 テーマ・職・氏名	・授業見学 【音楽】 音楽科研修会について 他 【美術】 全高美工研2026大阪大会 参加について 他 【書道】 第51回全日本高等学校 書道教育研究会富山大会 について テーマ 鑑賞	未定	未定	鑑賞・施設見学等 (予定)	
参加者数	49名	16名	17名	18名		
研修分野の分類 <small>下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを 先に</small>	①、②、③、④	①、②、⑦	①、②、⑦	①、②、⑤、⑦		
研究調査	主要テーマ	「新しい芸術教育の取組について」 「持続可能な研究会のあり方について」				
	調査の期日 場所・参加者数	「新しい芸術教育の取組について」 各高等学校において日常的なテーマとして研究し、各科研修会にて情報共有する (場所・参加者数は上記を予定) 「持続可能な研究会のあり方について」 令和8年8月7日(木)、8日(金) 第51回全日本高等学校教育研究会富山大会【北信越ブロック開催】 富山県民会館				
図書購入	図書冊数	なし				
刊行物出版	名称	報告をまとめ、HPに掲載する				
	主な内容	実践報告等				
	冊数					

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 英語部会 令和7年度事業報告書

部長 白藤 恵一

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上	
	期日	8月7日（木）	11月26日（水）
	場所	オンライン、対面併用のハイブリッド開催	オンライン、対面併用のハイブリッド開催
	研究会名称	夏季研修会	全県研究大会
	研究会テーマ「講演テーマ」	English-richな授業づくりのためのTips～生徒を楽しく英語で学ばせるためのスキルアップ講座～	AI活用時代の英語の授業に求められる指導・支援の在り方
	講師職氏名	新潟市立万代高等学校 ALT エリオット・カーソン	群馬大学共同教育学部 講師 津久井 貴之様
	研究発表テーマ・職・氏名	なし	夏季研修を受けての授業改善 県立十日町総合高等学校教諭・小山万里子 県立栃尾高等学校教諭・岡崎郁美 県立小千谷高等学校教諭・新保香南 県立新潟東高等学校教諭・永橋知明
	参加者数	32名	57名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②④	①②③④	
調査	研究調査	なし	
	主要テーマ	なし	
購入	調査の期日	なし	
	場所・参加者数	なし	
刊行物出版	図書名	なし	
	冊数	なし	
	名称	「英語部会誌」第70号	
研究	主内容	研修会報告、実践報告など	
	冊数	250冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 英語部会 令和8年度事業計画（案）

部長 白藤 恵一

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	8月	11月	未定	
	場所	未定	未定	未定	
	研究会名称	夏季研修会	全県研究大会	会員有志による研究会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上	
	講師職氏名	未定	未定	未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名	・研究発表：県内英語科教諭等	・講演 ・研究発表：県内英語科教諭等	・研究授業 ・実践発表等	
	参加者数	50人	100人	50人	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①～⑦	①～⑦	①～⑦		
研究調査	主要テーマ	学習指導要領の指導と評価、ICT活用、授業改善			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名数	未定			
刊行研究成果出版	名称	「英語部会誌」71号			
	主内 容	研修会報告、実践報告、寄稿等			
	冊数	250部			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 農業 部会 令和 7 年度事業報告書

部長 村山 英司

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展	
	期日	令和7年8月22日(金)	令和7年11月27日(木)
	場所	アトリウム長岡	新発田農業高校会議室
	研究会名称	農業教育研究大会 (加茂農林高等学校)	課題研究会 (新発田農業高等学校)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒の夢を創造し実現する農業教育の推進 演題 「笑う門にはイモ来たる」	スマート農業に関する先進的な農業教育への導入
	講師職氏名	(株)農プロデュースリッツ 代表取締役 新谷梨恵子	(株)NTTe-Drone Technology 木下幸太郎
	研究会発表 テーマ・職・氏名	「地域創生活動を通じた新しい時代に求められる学力の育成」 新潟県立長岡農業高等学校 教諭 鈴木 孝紀 「令和7年度 学校運営等研究協議会報告」 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校 教諭 山本 悠太	ドローン操作実演
参加者数	50名	25名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③	②③	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
購図書	図書名数		
刊行研究成果 出版物出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第60号(長岡農業高等学校)	
	主内容	研究論文・報告文・トピックス・その他	
	冊数	180冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 農業 部会 令和 8 年度事業計画（案）

部長 村山 英司

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展	
	期日	令和8年8月6日(木) ～7日(金)	令和8年11月下旬(予定)
	場所	新潟東映ホテル	未定
	研究会名称	農業教育研究大会 (新発田農業高等学校)	課題研究会 (新発田農業高等学校)
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数	未定	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③	②③	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名数		
刊行研究成果出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第61号(高田農業高等学校)	
	主内容	研究論文・報告文・トピックス・その他	
	冊数	180冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 7 年度事業報告書

(見学会・講習会の部)

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	7月29日(火)	9月26日(金)	9月26日(金)	10月1日(水)
	場所	柏崎工業高等学校	駅北広場キターレ (糸魚川市)	三菱ガス化学(株) 新潟工場	ろくのお (三条市裏館)
	研究会名称	機械・電子機械 見学会	土木見学会	工業化学 見学会	建築見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	第25回高校生もの づくりコンテスト新潟 県大会	糸魚川大規模火 災について	工場内施設 設備の見学	施設見学 (空き家活用例、 まちやま等)
	講師職氏名		元消防士 長野 隆一様		(一社) 燕三条空 き家活用プロジェクト 平野 彩音様
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	14名	12名	12名	11名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②⑤	①⑤	①⑤	①⑤	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図冊名数				
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県工業教育紀要第62号			
	主 内 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和7年度研究収録			
	冊 数	デジタルによる発行 DVD70枚			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(見学会・講習会の部)

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	11月27日(木)			
	場所	東北電力ネットワーク㈱ 長岡電力センター 城内・美沢事務所			
	研究会名称	電気・電子 見学会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	施設設備の 見学			
	講師職氏名	長岡電力センター 配電管理課 課長 鈴木 達也様			
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	14名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①⑤				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数 冊数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要第62号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和7年度研究収録			
	冊数	デジタルによる発行 DVD70枚			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 7 年度事業報告書

(研究会の部)

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	9月26日(金)	9月26日(金)	10月1日(水)	11月27日(木)
	場 所	上越総合技術高等学校	新潟工業高等学校	三-Me. (三条市神明町)	東北電力ネットワーク㈱ 城内事務所
	研究会名称	土木研究会	工業化学研究会	建築研究会	電気・電子研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒が主体的に学ぶ課題研究等のあり方	令和7年度事業報告、令和8年度事業計画 カリキュラム等情報交換	笑顔つどる街を一空き家から広がる地域の可能性ー	「学生が望む理想の企業とは」
	講師職氏名	上越教育大学 大学院助教 山崎 恭平様		(一社) 燕三条空き家活用プロジェクト 熊谷 浩太様	長岡電力センター 配電管理課 副長 藤井 克嗣様
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	12名	12名	11名	14名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②	①②	①②	①②	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数 冊				
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県工業教育紀要第62号			
	主 内 容	工業教育(講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など)の令和7年度研究収録			
	冊 数	デジタルによる発行 DVD70枚			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

(研究会の部)

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	1月14日(水)			
	場所	長岡市さいわいプラザ			
	研究会名称	ロボット技術研究協議会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	各ロボット競技大会報告、 ロボット機構紹介			
	講師職氏名	長岡工業高等専門学校ロボティクス部 長岡技術科学大学			
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数	72名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②③⑦				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要第62号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和7年度研究収録			
	冊数	デジタルによる発行 DVD70枚			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 8 年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	未定	8月下旬 10月上旬	10月上旬
	場所	新津工業 （当番校）	新潟工業 （当番校）	新津工業 （当番校）	塩沢商工 （当番校）
	研究会名称	機械・電子機械 見学会	電気・電子 見学会	建築見学会	土木見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	電気設備等 の見学	未定	未定
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①⑤	①⑤	①⑤	①⑤	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果 出版	名称	新潟県工業教育紀要第63号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和8年度研究収録			
	冊数	デジタルによる発行 DVD70枚			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 8 年度事業計画（案）

（見学会・講習会の部）

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	9月下旬			
	場所	長岡工業 (当番校)			
	研究会名称	工業化学 見学会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定			
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①⑤				
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要第63号			
	主要内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和8年度研究収録			
	冊数	デジタルによる発行 DVD70枚			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 8 年度事業計画（案）

（研究会の部）

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	未定	8月下旬 10月上旬	10月上旬
	場所	新津工業	新潟工業	新津工業	塩沢商工
	研究会名称	機械・電子機械研究会	電気・電子研究会	建築研究会	土木研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	最近の 電力動向	未定	未定
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①③⑦	①③⑦	①③⑦	①③⑦	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書冊数				
刊行研究成果出版	名称	新潟県工業教育紀要第63号			
	主内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和8年度研究収録			
	冊数	デジタルによる発行 DVD70枚			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 工業部会 令和 8 年度事業計画（案）

（研究会の部）

部長 諸橋 孝二

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	9月下旬	1月中旬		
	場所	長岡工業	長岡工業		
	研究会名称	工業化学研究会	ロボット技術研究協議会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	各ロボット競技大会報告、 ロボット機構紹介		
	講師職氏名				
	研究発表 テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①③⑦	①③⑦			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図冊名数				
刊 研 行 究 物 成 出 果 版	名 称	新潟県工業教育紀要第63号			
	主 内 容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和8年度研究収録			
	冊 数	デジタルによる発行 DVD70枚			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 商業 部会 令和 7 年度事業報告書

部長 小 畑 智 嗣

研究会・講習会等の開催	目 的	経済社会の発展を担う商業教育	
	期 日	令和7年12月12日(金)	
	場 所	町家交流館高田小町 多目的ホール	
	研 究 会 名 称	高教研商業部会 ビジネス分野研究会	
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「天然醸造の 味噌・醤油づくり」	「観光について」
	講 師 職 氏 名	高野醤油味噌醸造店 代表 高野 修 様	上越観光コンベンション協会 事務局次長 仙田 浩 様
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	なし	
	参 加 者 数	11校 20名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①・②	
研究調査	主 要 テ ー マ	なし	
	調 査 の 期 日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図 書 名 数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図解でわかる 14 歳から学ぶこれからの観光 1 冊 ・ オーバーツーリズム観光に消費されないまちの作り方 1 冊 ・ 歩いて読み解く地域経済 1 冊 ・ 地元を再発見する！手書き地図のつくり方 1 冊 ・ Q&Aで地域を再発見！手書き地図の教科書 1 冊 ・ マニア流！まちを楽しむ「別視点」入門 1 冊 ・ はじめてのまちづくり学 1 冊 	
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名 称	新潟県商業教育第 60 号	
	主 内 容	研究発表、実践報告、大会報告、研究会報告	
	冊 数	100 冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 商業部会 令和8年度事業計画（案）

部長 小畑 智嗣

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育
	期日	11月中旬
	場所	県立塩沢商工高等学校
	研究会名称	未定
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定
	講師職氏名	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定
参加者数	約20名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	未定	
研究調査	主要テーマ	なし
	調査の期日 場所・参加者数	
図書購入	図書名数	未定
刊行研究成果出版	名称	新潟県商業教育 第61号
	主内容	1. 研究論文 2. 実務競技大会報告 3. 専門委員会報告 4. 各種研究会報告 5. 検定試験結果報告 6. その他
	冊数	約100冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	本県の高等学校で水産・海洋教育に携わる教職員が集い、海洋・水産教育の諸問題について研究協議し、水産教育の充実と発展を目指す。			
	期日	11月27日(木)			
	場所	糸魚川市			
	研究会名称	新潟県高等学校教育研究会・水産部会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産教育のDXはいかに進めるか 「DXで何が出来るか?入門から応用まで」			
	講師職氏名	新潟大学 創生学部 教授 田中一裕 教授 熊野英和			
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし			
参加者数	16名				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	②①				
研究調査	主要テーマ	なし			
	調査の期日 場所・参加者数	なし			
図書購入	図書名 冊数	噴火・豪雪、自然災害でインフラはどうなるの、防災リテラシー、基本航海法規、基本海上気象、操船の基礎、基本海事法規、船舶職員及び小型船舶操縦者法関係法令、等 計14冊			
刊 行 物 出 版 研 究 成 果	名称	令和7年度 新潟県水産教育研究会			
	主な内容	成果報告書(電子データで作成・配布)			
	冊数	0冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 水産 部会 令和 8 年度事業計画（案）

部長 保坂 哲

研究会・講習会等の開催	目的	本県の高等学校で水産・海洋教育に携わる教職員が集い、海洋・水産教育の諸問題について研究協議し、水産教育の充実と発展を目指す。			
	期日	11月27(金)			
	場所	糸魚川市			
	研究会名称	新潟県高等学校教育研究会・水産部会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定			
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	30名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となる テーマを先頭に	③②①				
研究調査	主要テーマ	未定			
	調査の期日 場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名 冊数	未定			
刊行物出版	名称	令和8年度 新潟県水産教育研究会			
	主な 内容	成果報告書（電子データで作成・配布）			
	冊数	0冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研家庭科部会令和7年度事業報告書

部長 江川 真

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	8月4日(月)	
	場所	燕三条地場産業振興センターメッセピア (三条市)	
	研究会名称	全県講習会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1 講演 「性差とジェンダーの多様性を考える」 2 講演 「出汁から広がる！おいしい暮らしと未来とSDGs」	
	講師職氏名	1 講演 LGBTs啓発活動団体PRIDE LINK 代表 羽賀 風真 様 2 講演 株式会社フタバ 代表取締役社長 江口 晃 様	
	研究発表 テーマ・職・氏名		
参加者数	23人		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	① ②		
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
購図書	図書名数		
刊行研究成果 物出版	名称	家庭科研究第61号	
	主内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	130冊	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研家庭科部会令和8年度事業計画（案）

部長 江川 真

研究会・講習会等の開催	目 的	家庭科教育の充実と発展	
	期 日	8月4日（火）	
	場 所	新潟工科大学（柏崎市）	
	研 究 会 名 称	全県講習会	
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	「防災教育に関する教員研修」	
	講 師 職 氏 名	未 定	
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	未 定	
	参 加 者 数	30名	
研究調査	主 要 テ ー マ		
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数		
購 入 図 書	図 書 名 冊 数		
刊 行 物 出 果 研 究 成 果 版	名 称	家庭科研究第62号	
	主 内 容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊 数	130冊	

高教研 保健体育部会 令和7年度事業報告書

部長 杵鞭 義孝

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	令和7年12月10日(水)	令和7年11月13日(木)
	場所	新潟県健康づくり・ スポーツ医科学センター	長岡市中央図書館
	研究会名称	保健体育部会全県研修会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	1 よりよい授業改善に向けて 2 令和8年度全国学校体育研究大会新潟大会	1 「児童生徒が抱える現代的健康問題に関わる養護教諭の資質・能力の向上」 2 「保健室で使えるグループセラピーやメンタライジング」
	講師職氏名	教育庁 保健体育課 副参事・係長 間 健太郎 様 指導主事 山田 耕平 様	新潟医療福祉大学 心理・福祉学部 助教 木村 能成 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	生徒が深く学ぶ楽しさや喜びを実感することができる保健授業の工夫 新潟商業高等学校 教諭 品田 貴恵子	なし
参加者数	28名	75名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①②③	①②	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名 冊数	なし	
刊行物 研究成果 出版	名称	研究集録 第61集	
	主な内容	研究会、講演会の内容集録	
	冊数	0部 HPに掲載	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 保健体育部会 令和8年度事業計画（案）

部長 杵鞭 義孝

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	未定	未定
	場所	未定	未定
	研究会名称	未定	未定
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数	約 50 名	約 100 名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となる テーマを先頭に	①② (③)	①②	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
入 図書購	図書名 冊数	なし	
刊 研究 行 成果 物 出版	名称	研究集録 第 62 集	
	主な 内容	研究会、講演会の内容集録	
	冊数	0 部 HP に掲載	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	情報科教育の充実と発展
	期 日	1月
	場 所	オンライン
	研究会名称	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生成 AI は教育の敵か、味方か？ ー子どもたちの学びを深め、先生の時間を作る方法ー
	講師職氏名	長岡技術科学大学 情報・経営システム系 准教授 雲居 玄道
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
	参加者数	23名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②	
研究調査	主要テーマ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成
	調査の期日 場所・参加者数	県内高等学校
図書購入	図書冊数	なし
研究成果 刊行物出版	名 称	なし
	主 内 容	なし
	冊 数	なし

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 情報部会 令和8年度事業計画書（案）

部長 原口 央

研究会・講習会等の開催	目的	情報科教育の充実と発展	
	期 日	7～8月	11月
	場 所	未定	未定
	研 究 会 名 称	情報教育研究会	全県研究協議会
	研 究 会 テ ー マ 「講演テーマ」	未定	未定
	講 師 職 氏 名	中央大学 国際情報学部 教授 岡嶋裕史	未定
	研 究 発 表 テーマ・職・氏名	2026 大学入学共通テストにおける 本県の状況 教諭 関川 祐介	未定
	参 加 者 数		
研 修 分 野 の 分 類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①②	①②③	
研究調査	主 要 テ ー マ	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための資質・能力の育成	
	調 査 の 期 日 場 所 ・ 参 加 者 数	県内高等学校	
図書購入	図 書 名 冊 数	未定	
研究成果 刊行物出版	名 称	「情報教育研究集録」	
	主 内 容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容	
	冊 数	情報部会HP掲載予定	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期日	令和7年11月7日(金)
	場所	県立巻高等学校
	研究会名称	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「生徒の伸長と発達を支える生徒指導」 ～ 生徒一人一人の自己実現を目指して ～ 講演 「PBSの知見を活かした高校生の理解と支援」
	講師職氏名	宮崎大学教育学部 教授 若林 上総 様
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
参加者数	43名(オンラインでの参加者を含む)	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①, ②, ⑦	
研究調査	主要テーマ	「すべての生徒が安心して過ごせる学校づくり」
	調査の期日 場所・参加者数	参加者によるワールドカフェ方式の研修・研究協議 場所：県立巻高等学校 25名
図書購入	図書冊数	なし
刊行物出版 研究成果	名称	生徒指導部会誌 第58号
	主内容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊数	330冊

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽
	期日	令和8年11月上旬
	場所	県立巻高等学校
	研究会名称	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「生徒の伸長と発達を支える生徒指導」 ～ 生徒一人一人の自己実現を目指して ～ 講演 未定
	講師職氏名	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし
参加者数	50名程度（オンラインでの参加者を含む）	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	①, ②, ⑦	
研究調査	主要テーマ	「不登校支援のあり方について」
	調査の期日 場所・参加者数	テーマ別に分かれての研究協議 場所：県立巻高等学校等 20名程度
図書購入	図書冊数	なし
刊行物出版 研究成果	名称	生徒指導部会誌 第59号
	主内容	研究内容・資料・部会活動報告
	冊数	330冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研 図書館部会 令和7年度事業報告書

部長 川上 史人

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導のあり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期 日	8月7日(木)	()	()	()
	場 所	小千谷市ひと・まち・文化共創拠点 ホントカ。			
	研究会名称	総会・講演会(ワークショップ)			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「くあらまし読み」 ～探究の入口となる新・読書術～ 「 」 「 」 「 」			
	講師職氏名	「あらまし読み推進会」代表 牧 恵子 様			
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし			
	参加者数	23名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	②⑤				
研究調査	主要テーマ	講演に関する事前・事後アンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議			
図書購入	図書冊数	なし			
刊行研究成果出版	名称	「図書館部報」第69号			
	主内	研究会・総会報告・研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	180冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研 図書館部会 令和8年度事業計画（案）

部長 川上 史人

研究会・講習会等の開催	目的	1 生徒の実態を踏まえての読書指導のあり方 2 情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	未定			
	場所	新潟ユニゾン プラザ			
	研究会名称	総会・講演会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定			
	講師職氏名	未定			
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	未定			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	①				
研究調査	主要テーマ	図書館運営に関する事前アンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議			
図書購入	図書 冊数	未定			
刊行研究成果 出版物	名称	『図書館部報』第70号			
	主内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	180冊			

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研視聴覚部会 令和7年度事業報告

部長 清水 哲

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期 日	4月26日	5月16日	6月7日	8月18日 ～19日	11月9日	11月28日	1月12日	3月15日
	場 所	長岡市 長岡大学	新潟市 新潟情報 専門学校	長岡市 長岡大学	長岡市 長岡温泉 湯元館	新潟市 新潟明訓 高等学校	新潟市 NST新潟 総合テレビ	長岡市 中越高等学校	新潟市 新潟明訓 高等学校
	研究会 名 称	新潟・下越 地区、上越 中越地区初 心者講習会 (合同開催)	春期講習会	新潟県高校 放送コンテ スト主催事 業	夏期講習会 視聴覚部会 総会	QK杯校内 放送コンク ール共催事 業	視聴覚技術 研修会	放送技術者 冬期講習会	放送技術者 春期講習会 研修会
	研究会 テーマ 「講演 テーマ」	基礎的な 放送・視 聴覚技術 に関する 指導方法 の習得	iPadで動画 編集と生成 AI体験	コンテス トの評価 方法	校内放送 コンクール に向けた 読み番組の 実践的 指導方法	コンテス トの評価 方法	番組制作 現場の見学 アナウンサー 技術、番組 演出技術の 習得	北信越大会 に向けた 読み番組の 実践的 指導方法	NHK杯 に向けた 読み番組 の実践的 指導方法
	講師職 氏 名	高文連専 門部役員	新潟情報 専門学校 川崎敬太様	NHK新潟放送局 アナウンサー 山崎智彦様 コンテンツセンター副部長 森内貞雄様	新潟工業高校 平倉政弘様 高文連専門 部役員	NHK新潟放送局 アナウンサー 山崎智彦様 チーフディレクター 太田真由理様	NST新潟総合テレビ アナウンサー 飛田厚史様 新潟お笑い集団 NAMARA 大野まさや様	高文連専 門部役員	高文連専 門部役員
	研究発 表テーマ・ 職・氏名								
	参加 者数	13人	12人	21人	15人	20人	9人	9人	15人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複 数選択可。主となるテー マを先頭に	②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ⑤見学会 ⑦講習	②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	
研究 調査	主 要 テーマ	第48回校内放送指導者講座							
	調 査 の 期日 場所・参 加者数	12月26日～27日 東京都千代田放送会館 現地1人、オンライン6人参加							
図 書	図書名 冊 数								
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「視聴覚教育研究第63号」							
	主 内 容	実践研究報告 令和7年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊 数	40冊							

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研視聴覚部会 令和8年度事業計画書（案）

部長 清水 哲

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。							
	期 日	4月25日	5月中旬	6月6日	8月17日 ～18日	11月8日	11月下旬	1月11日	3月14日
	場 所	長岡市 長岡大学	県内高等学校 (予定)	長岡市 長岡大学	長岡市 長岡温泉 湯元館	新潟市 新潟明訓 高等学校	長岡市 長岡造形 大学(予定)	長岡市 まちなか キャンパス 長岡	新潟市 新潟明訓 高等学校
	研究会 名 称	新潟・下越 地区、上越 中越地区初 心者講習会 (合同開催)	春期視聴覚 講習会 (予定)	新潟県高校 放送コンテ スト主催事 業	夏期講習会 視聴覚部会 総会	QK杯校内 放送コンク ール共催事 業	視聴覚技術 研修会	放送技術者 冬期講習会	放送技術者 春期講習会 研修会
	研究会 テーマ 「講演 テーマ」	基礎的な 放送・視 聴覚技術 に関する 指導方法 の習得	基礎的な 放送・視 聴覚技術 に関する 指導方法 の習得	コンテス トの評価 方法	校内放送 コンク ールに 向けた 読み番 組の実 践的指 導方法	コンテス トの評価 方法	番組制作 報道技術 に関する 現場見 学	北信越大 会に 向けた 読み番 組の実 践的指 導方法	NHK杯 に 向けた 読み番 組の実 践的指 導方法
	講師職 氏 名	高文連専 門部役員	未定	NHK専門 職ディレ クター アナウン サー	高文連専 門部役員	NHK専門 職ディレ クター アナウン サー	未定	高文連専 門部役員	高文連専 門部役員
	研究発 表テーマ・ 職 氏名								
	参加 者数	20人	15人	20人	15人	20人	15人	15人	15人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複 数選択可。主となるテ マを先頭に	②指導法 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	①専門分野	②指導法 ⑦実習・講 習	①専門分野	②指導法 ⑥見学会 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	②指導法 ⑦実習・講 習	
研究 調査	主 要 テーマ	第49回校内放送指導者講座							
	調査の期 日 場所・参 加者数	12月下旬 東京都千代田放送会館 現地2人、オンライン5人程度							
図 書	図書名 冊 数								
刊 行 物 成 果 出 版	名 称	「視聴覚教育研究第64号」							
	主 内 容	実践研究報告 令和8年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約							
	冊 数	40冊							

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

高教研定通部会 令和7年度事業報告書

部長 吉川 保

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	令和7年7月29日(火)	令和7年11月19日(水)
	場所	内野まちづくりセンター	県立荒川高等学校
	研究会名称	令和7年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会並びに新潟県高等学校通信制教育研究会	令和7年度新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「ともに学ぶ、ともに生きる」	定時制・通信制における教務、生徒指導、進路指導、特別支援教育に関する情報交換
	講師職氏名	新潟市教育委員会 特別支援教育課指導主事 齋藤 いずみ 様	
	研究発表 テーマ・職・氏名	県外視察報告 県立長岡明德高等学校 教諭 松尾 恵子 学習指導 県立新潟翠江高等学校 教諭 大竹 賢造 特別支援教育 県立高田南城高等学校 教頭 須貝 哲二	①定時制教務 ②通信制教務 ③生徒指導 ④進路指導
参加者数	110名	48名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に	② ③	① ⑥	
研究調査	主要テーマ	県外の先進校視察(教育課程、進路指導、特別支援教育等について調査)	
	調査の期日 場所・参加者数	令和7年10月17日(金)、参加者3名 東京都立立川緑高等学校、東海大学付属望星高等学校	
図書購入	図書冊数		
刊行物出版 研究成果	名称	実践集録 62号	
	主内容	定時制・通信制教育総合研究会、県外視察、情報交換会の報告	
	冊数	デジタルデータにて会員に配付	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研定通部会 令和8年度事業計画（案）

部長 吉川 保

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	令和8年7月28日（火）	令和8年11月20日（金）
	場所	内野まちづくりセンター	新潟英智高等学校
	研究会名称	令和8年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会並びに新潟県高等学校通信制教育研究会	令和8年度新潟県高等学校定時制・通信制教育研究協議会各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「（未定）」	定時制・通信制における教務、生徒指導、進路指導、特別支援教育に関する情報交換
	講師職氏名	未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名	県外視察報告 新潟市立明鏡高等学校教諭 テーマ未定 県立荒川高等学校教諭 テーマ未定 開志学園高等学校教諭	未定
	参加者数	約100人	約50人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に	② ③	① ⑥	
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図冊名数		
刊行研究成果出版	名称	実践集録63号	
	主内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告	
	冊数	デジタルデータにて発行	

① 専門分野、② 指導法、③ 実践報告、④ 新教育課程、⑤ 見学会、⑥ 公開授業、⑦ 実習・講習・展示

令和7年度新潟県高等学校教育研究会理事会（書面審議）録

<理事会書面審議>

6月16日（月）

- ・「令和7年度 高教研理事会」書面審議資料をメールにて送付

6月30日（月）

- ・令和7年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項の結果について下記により（報告）

記

県高等学校教育研究会 役員様	高教研第6号 令和7年6月30日
県高等学校教育研究会会長 県立新潟南高等学校長 平山剛	
令和7年度新潟県高等学校教育研究会に係る 審議結果報告および運営に係る連絡	
日頃より、当会の運営に御協力いただき感謝申し上げます。 さて、標記について御報告するとともに、本年度の運営に関し連絡申し上げます。	
1 令和7年度新潟県高等学校教育研究会に係る審議事項について 理事会において御審議いただきありがとうございました。令和7年度の審議事項につきましては、次のようになりましたので御報告いたします。	
<審議結果>	
(1) 令和6年度事業報告 (2) 令和6年度決算報告 (3) 令和7年度役員（案） (4) 令和7年度委員および会員数 (5) 令和7年度事業計画（案） (6) 令和7年度予算（案）	承認 承認 承認 承認 承認 承認

令和7年度の活動から

1 研究会等

対面での研究会や講習会が各地で行われる一方、オンラインも活用され、各部会の特色に応じた多様な形式で研究会（講習会・見学会・発表等）が実施されました。詳細については一覧を御覧ください。

2 研究助成等に関して

近年は会員数の減少傾向が続いております。それに伴う会費収入の減少のため、予算は厳しい状況が続いております。このような状況の中で一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様からは、多額の助成をいただいております。ここに記して御礼申し上げます。

3 会の運営について

(1) 高教研ホームページについて

平成26年8月に開設した高教研ホームページですが、各部会から積極的に御活用いただけるよう取り組んでおります。各部会の事業の内容や研究成果及び刊行物等を掲載し、部会の研究成果を広く発信するなど、ホームページの活用をお願いいたします。また事務局におきましても、郵送コスト圧縮のために、メールとホームページを積極的に活用して経費を節減しております。各種様式をホームページからダウンロードすることで、各部会等との連携強化と運営の効率化を図っています。今後も有効に活用くださるようお願いいたします。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ	https://kokyoken.nein.ed.jp/
--------------------	---

(2) 会員募集方法について

加入申込については、電子メールによる申込とし、また、入会費の納入に係る「振込依頼書」は郵送にてお届けしました。次年度に向け、申込方法や期限などを明確にお伝えできるよう改善していきたいと考えております。

年度始めの御多用の中、各校において当会への加入に係るお声かけや加入申込み業務を行っていただき感謝申し上げます。

(3) 会計取扱要領について

会計の適正な執行及び透明性確保の観点から、平成29年度に「部会会計取扱要領」を定め施行しています。これに則り、適切な運用に御協力いただき感謝申し上げます。

今後、各部会のよりよい運営といった観点で、「部会会計取扱要領」等について見直し改善を進めていきたいと考えています。

4 高教研の活性化について

令和6年度からPlantを活用した「研修履歴の記録の作成」と、当該履歴を活用した資質向上に関する校長等による「対話に基づく受講奨励」が始まりました。現時点で、高教研としてPlantへ研修の登録はできませんが、今後も教員研修において、高教研が果たす役割は大きいと思います。

各部会におかれましては、時代に即した研究や協議を深めていただくとともに、その成果・情報を年報や高教研ホームページ等も活用しながら広く発信いただき、多くの先生方への加入に繋げていただければと思います。

(文責・幹事：新潟南高等学校 教頭 齋藤 文比古)

令和7年度 収支決算書

収入の部

区 分	当初予算額(a)	最終予算額	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘 要
会 費	2,774,000		2,798,000	24,000	年額一人2,000円×1,387人（追加会員2,000円×12人）
助 成 金	650,000		835,000	185,000	厚生財団(40万円)・教育公務員弘済会(25万円) 外部団体から部会へ補助（数学1万円・家庭5.5万円・視聴覚4万円・定通8万円）
雑 収 入	0		13,222	13,222	英語部会スピーチコンテスト残金(4,986円)、国語（160円）、理科(445円)、保健体育(278円)、生徒指導(212円)、定通(12円)、本部（7,129円）
前期繰越金	177,500		177,500	0	事務局関係費・予備費繰越
繰越金 (積立含む)	5,529,671		5,529,671	0	
合 計	9,131,171		9,353,393	222,222	

支出の部

I 部会別

区 分	当初予算額 (積立金を含む)	最終予算額(a) (積立金を含む)	決算額(b)	次年度積立金 (a-b)	摘 要					備 考
					研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他	
1. 国 語	451,212	451,372	251,434	199,938	97,848	13,886	0	139,700	0	利息(160円)
2. 地歴公民	295,038	295,038	221,830	73,208	127,450	0	0	94,380	0	
3. 数 学	1,004,076	1,014,076	193,662	820,414	173,362	0	0	20,300	0	外部団体補助金 (10,000円)
4. 理 科	616,676	617,121	281,627	335,494	141,877	60,550	0	79,200	0	利息(445円)
5. 芸 術	376,406	376,406	64,364	312,042	38,785	0	0	0	25,579	
6. 英 語	1,276,067	1,281,053	524,779	756,274	417,138	11,225	0	0	96,416	スピーチコンテスト 残金 (4,986円)
7. 農 業	422,359	422,359	227,361	194,998	128,361	0	0	99,000	0	
8. 工 業	538,227	538,227	229,254	308,973	92,626	16,628	0	120,000	0	
9. 商 業	159,000	159,000	159,000	0	57,940	0	16,060	85,000	0	
10. 水 産	369,760	369,760	189,581	180,179	4,373	120,112	65,096	0	0	
11. 家庭科	450,000	505,000	258,000	247,000	141,000	0	0	117,000	0	外部団体補助金 (55,000円)
12. 保健体育	884,110	884,388	206,445	677,943	206,445	0	0	0	0	利息(278円)
13. 情 報	595,587	595,587	21,162	574,425	21,162	0	0	0	0	
14. 生徒指導	548,926	549,138	263,571	285,567	112,211	0	2,200	149,160	0	利息(212円)
15. 図 書 館	277,194	277,194	229,843	47,351	124,903	0	0	104,940	0	
16. 視 聴 覚	223,467	263,467	149,664	113,803	70,160	29,804	16,700	33,000	0	NHK助成金 (40,000円)
17. 定 通	405,566	485,578	107,952	377,626	46,992	60,960	0	0	0	外部団体補助金(80,000 円)、利息(12円)
本部関係	137,500	137,500	98,340	39,160	0	0	0	0	98,340	
予備費	100,000	131,129	0	131,129	0	0	0	0	0	本部利息(7,129円) 追加会費(24,000円)
合 計	9,131,171	9,353,393	3,677,869	5,675,524	2,002,633	313,165	100,056	1,041,680	220,335	

II 費目別

区分	当初予算額	最終予算額(a)	決算額(b)	次年度積立金(a-b)	摘要
1. 研究大会費	3,671,753	3,671,753	2,002,633	1,669,120	
謝金	982,011	982,011	623,489	358,522	
旅費	710,184	710,184	275,592	434,592	
使用料及び貸借料	740,600	740,600	608,794	131,806	会場使用料・設備使用料等
資料費	310,367	310,367	61,936	248,431	
通信運搬費	604,591	604,591	260,485	344,106	送料、手数料等
賃金	120,000	120,000	20,110	99,890	
会議費	204,000	204,000	152,227	51,773	茶、茶菓子等
2. 研究調査費	542,100	542,100	313,165	228,935	
資料費	175,500	175,500	137,547	37,953	
通信運搬費	255,100	255,100	121,814	133,286	
会議費	111,500	111,500	53,804	57,696	
3. 研究図書購入費	175,600	175,600	100,056	75,544	
4. 研究成果刊行費	1,492,500	1,492,500	1,041,680	450,820	
5. その他	3,011,718	3,202,811	121,995	3,080,816	
6. 本部関係費	137,500	137,500	98,340	39,160	
事務費	72,000	72,000	38,940	33,060	送料、手数料
会議費	5,000	5,000	0	5,000	
刊行費	60,500	60,500	59,400	1,100	R6年度製本代
7. 予備費	100,000	131,129	0	131,129	※当初予算額からの変動分を調整(最終) 本部利息(7,129円)、追加会費(24,000円)
合計	9,131,171	9,353,393	3,677,869	5,675,524	

収入決算額 9,353,393

支出決算額 3,677,869

次年度繰り越し 5,675,524 (各部会次年度積立金含む)

会 計 監 査 報 告 書


新潟県高等学校教育研究会
会 長 平 山 剛 様

新潟県高等学校教育研究会の令和7年度会計監査を行い、精査いたしましたが相違ありません。予算の執行状況も適正と認めます。

監 査 日 令和8年4月30日(木)

場 所 県立新潟南高等学校

会計監査委員

加藤 伸 泰 

神蔵 康 紀 

永井 大 円 

令和7年度 高等学校教育研究会役員

会 長		平山 剛		新潟南					
副 会 長		田中 謙一		新潟中央		石黒 浩司		新発田	
		石橋 弘光		長 岡		橋本 敏郎		高 田	
		川上 豪		佐 渡					
顧 問		市野 正廣		新 潟					
部 会									
No.	部 会 名	部 長	副 部 長						部会幹事
1	国語	坂元 淳子 白根	萱森 茂樹 村上	川上 豪 佐渡	小林 靖明 羽茂				山本 寛 国際情報
2	地歴公民	山田 喜昭 久比岐	川合 克彦 新津南	植木 勲 直江津中等	馬場 隆史 新潟西	児玉 悟 糸魚川			三國 稔男 佐渡
3	数学	小林 英明 新津	関口 和之 新潟工業	夏見 康彦 柏崎	奥田 優 新井	伊皆 嘉樹 村上中等	西村 健一 津南中等		渡辺 晶子 新津
4	理科	伊藤 大助 長岡向陵	岩崎 啓 新潟向陽	田邊 康彦 松代	原口 央 燕中等	太田 修 長岡大手			山口 武 長岡向陵
5	芸術	小堺 さとみ 三条東	山下 幸治 堀之内	永井 昭光 新潟西	小野 由紀子 吉田				(音)天野 咲子 加茂 (美)中條 由美 上越総合技術 (書)松本 直美 新潟
6	英語	白藤 恵一 小千谷西	高松 利治 小出	池田 匡 柏崎工業	名川 由里子 有恒	吉田 桃子 三条商業	河内 一修 柏崎	小田島 朝美 出雲崎	長谷川 誠 高田商業
7	農業	村山 英司 加茂農林	阿部 慎 新発田農業	村山 和彦 長岡農業	木村 和史 高田農業				渡辺 秀明 加茂農林
8	工業	諸橋 孝二 長岡工業	藤澤 満 新津工業	松原 直樹 新潟県央工業	増田 てつ志 上越総合技術				中村 智幸 長岡工業
9	商業	小畑 智嗣 新潟商業	佐野 由美子 新発田商業	小林 皇司 長岡商業	石積 希 高田商業				萩野 美和子 新潟商業
10	水産	保坂 哲 海洋	岩谷 和彦 海洋						金子 義昂 海洋
11	家庭	江川 真 長岡大手	丸山 綾子 新潟向陽	小林 麻利子 巻総合	佐野 由美子 新発田商業				田中 郁子 長岡大手
12	保健体育	杵鞭 義孝 村上桜ヶ丘	傳田 秀輝 村松	樋口 猛 新潟北	古田 裕子 塩沢商工	安井 真 柏崎工業	水野 宏志 村上中等		関澤 徹 荒川
13	情報	原口 央 燕中等	小林 皇司 長岡商業	西村 健一 津南中等	石田 亘 巻総合	佐藤 一正 村上	竹内 努 松代		小林 佑 小出
14	生徒指導	磯邊 一幸 巻	傳田 秀輝 村松	杵鞭 義孝 村上桜ヶ丘	薄 一俊 荒川	村山 英司 加茂農林			青山 慎吾 巻
15	図書館	川上 史人 塩沢商工	佐野 由美子 新発田商業	梅田 均 糸魚川白嶺	川上 豪 佐渡				高橋 慧 塩沢商工
16	視聴覚	清水 哲 六日町	梅田 均 糸魚川白嶺						野村 信夫 新発田農業
17	定通	吉川 保 新潟翠江	薄 一俊 荒川	長浜 力也 長岡明德	小日向 史 高田南城	川上 豪 佐渡	保科 賢一郎 開志学園		本保 正佳 新潟翠江(定)
会計監査委員		加藤 伸泰 新潟商業	永井 大円 新潟東	神蔵 康紀 市立明鏡		(敬称略)			
事務局 (新潟南)		齋藤 文比古							

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	山本 寛	国際情報	132	8	工業	中村 智幸	長岡工業	114
2	地歴公民	三國 稔男	佐渡	131	9	商業	荻野美和子	新潟商業	53
3	数学	渡辺 晶子	新津	203	10	水産	金子 義昂	海洋	112
4	理科	山口 武	長岡向陵	160	11	家庭	田中 郁子	長岡大手	99
5	芸術	(音)天野咲子	加茂	51	12	保健体育	関澤 徹	荒川	78
		(美)中條由美	上越総合技術		13	情報	小林 佑	小出	61
		(書)松本直美	新潟		14	生徒指導	青山 慎吾	巻	196
6	英語	長谷川 誠	高田商業	197	15	図書館	高橋 慧	塩沢商工	53
7	農業	渡辺 秀明	加茂農林	149	16	視聴覚	野村 信夫	巻総合	23
					17	定通	本保 正佳	新潟翠江(定)	137

会計監査委員

新潟商業	新潟東	市立明鏡
加藤 伸泰	永井 大円	神蔵 康紀

事務局幹事

新潟南
齋藤 文比古

委員及び会員数

地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数	地区	学番	学校名	委員氏名	人数		
新	1	新潟	富樫 亮	42	長岡	32	長岡	田中 裕久	18	柏崎	61	柏崎	河内 一修	21		
	2	新潟中央	貝田 智子	31		33	長岡大手	菅 卓	22		62	柏崎常盤	羽二生 大輔	7		
	3	新潟南	齋藤 文比古	17		34	長岡向陵	松井 武文	8		63	柏崎総合	徳永 美智子	9		
	4	新潟江南	沢田 貴博	12		35	長岡明德	渡辺 新太郎	10		64	柏崎工業	安井 真	7		
	5	新潟西	永井 昭光	11		36	長岡農業	山崎 勇	29		65	出雲崎	小田島 朝美	4		
	6	新潟東	永井 大円	15		37	長岡工業	伊藤 健	14		中等2	柏崎翔洋中等	柿崎 宏行	11		
	7	新潟北	樋口 猛	3		38	長岡商業	鈴木 春樹	10		特20	柏崎特別支援	山崎 彰	1		
	8	新潟工業	丸山 祐作	28		39	正徳館	佐藤 直之	4		私14	新潟産大付属(全)	高倉 聡	8		
	9	新潟商業	荻野 美和子	18		40	栃尾	柳澤 裕一	8		私14	新潟産大付属(通)	野村 満秋	1		
	10	新潟向陽	南雲 悠	9		41	見附	中村 公紀	6		66	高田	鹿俣 譲	15		
	11	新潟翠江(定)	本保 正佳	8		特3	長岡豊	田邊 豊	2		67	高田北城	吉田 昌生	13		
	11	新潟翠江(通)	近藤 崇	10		私9	帝京長岡	嶋原 章子	10		68	高田南城(定)	須貝 哲二	4		
	12	巻	笠原 正博	20		私10	中越	後藤 暁	17		68	高田南城(通)	桑原 俊彦	2		
	13	巻総合	石田 亘	17		私19	長岡英智	今井 基也	24		69	高田農業	柴宮 秀生	29		
	14	豊栄	渡邊 幸晴	4		42	三条	阿部 英敬	21		上	70	上越総合技術	安澤 和晃	23	
	15	新津	鈴木 綾乃	18		43	三条東	滝澤 祐樹	13		71	高田商業	青山 淳	8		
	16	新津工業	小池 茂樹	15		44	新潟県央工業	矢代 譲	14		72	久比岐	渡邊 修二	3		
	17	新津南	飯田 靖司	5		45	三条商業	吉田 桃子	6		73	有恒	山田 茂	4		
	18	白根	矢坂 英也	4		46	吉田	小野 由紀子	6		74	新井	山中 政一	7		
	市1	万代	上村 正子	27		47	分水	田辺 将吾	3		越	75	糸魚川	児玉 悟	3	
市2	明鏡	神蔵 康紀	5	48	加茂	鈴木 和也	6	76	糸魚川白嶺	猪又 慶太	7					
市中等1	高志中等	竹内 滋之	7	49	加茂農林	緒形 忠大	30	77	海洋	岩谷 和彦	19					
特1	新潟よつば学園	横田 大輔	2	中等5	燕中等	中村 敬行	12	中等5	直江津中等	藤田 泰夫	5					
私1	新潟明訓	梶 良成	65	私11	加茂暁星	坂田 洋史	5	私15	上越	木下 幸彦	9					
私2	北越	舩木 和久	26	50	小千谷	浦部 頼之	8	私16	関根学園	西嶋 俊文	10					
私3	新潟青陵	小熊 幸司	11	51	小千谷西	富田 紀男	9	78	佐渡	杉山 礼	14					
私4	新潟清心女子	滝澤 卓	3	52	堀之内	藤岡 英之	10	佐	78	相川分校	信田 英樹	3				
私5	敬和学園	浅妻 和章	2	53	小出	行方 美幸	4	79	羽茂	祝 政弘	5					
私6	新潟第一	宮田 佳則	13	54	国際情報	山本 寛	10	渡	80	佐渡総合	森平 雅人	18				
私7	東京学館新潟	曾我 秀哉	59	55	六日町	内山 崇	3	中等6	佐渡中等	加藤 一巳	6					
私8	日本文理	渡邊 弘一	12	56	八海	羽賀 己生	4	行2	県立教育センター		20					
私17	開志学園	小嶋 健慈	4	57	塩沢商工	古田 裕子	6	行	行政(県庁内各課)		37					
私20	開志創造	清水 源一	4	58	十日町(全)	加納 直恵	8		新潟市教育委員会		3					
五	19	五泉	三本 朗子	8	58	十日町(定)	豊岡 裕一	1	政							
	20	村松	横山 泰充	6	59	十日町総合	徳永 伸英	19								
	21	阿賀黎明	長谷川 暁子	3	60	松代	竹内 努	3								
	22	新発田	鈴木 信行	18	中等4	津南中等	宮澤 雅樹	10		合計					1,399	
	23	西新発田	生田 昌司	6												
	24	新発田南	林 芳隆	23												
	25	新発田農業	熊木 秀徳	25												
	26	新発田商業	佐藤 直人	3												
	27	村上	佐藤 一正	5												
	28	村上桜ヶ丘	波多野 隆	11												
	29	荒川	関澤 徹	5												
新	30	中条	馬場 宏	5												
	31	阿賀野	阿部 茂雄	2												
	私12	新発田中央	佐藤 秀夫	11												
	私13	開志国際	伊藤 浩	2												
	中等1	村上中等	水野 宏志	10												

新潟県高等学校教育研究会規約

第1章 総 則

第 1 条 この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。

第 2 条 この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。

第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

1. 高等学校教育に関する調査研究
2. 研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行
3. 会員の研究に対する援助
4. その他この会の目的達成に必要な事項

第2章 組 織

第 4 条 この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。

- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| 1. 国語部会 | 2. 地理歴史・公民部会 | 3. 数学部会 |
| 4. 理科部会 | 5. 芸術部会 | 6. 英語部会 |
| 7. 農業部会 | 8. 工業部会 | 9. 商業部会 |
| 10. 水産部会 | 11. 家庭科部会 | 12. 保健体育部会 |
| 13. 情報部会 | 14. 生徒指導部会 | 15. 図書館部会 |
| 16. 視聴覚部会 | 17. 定通部会 | |

第3章 機 関

第 5 条 この会は、次の機関をおく。

1. 理事会
2. 委員会
3. 部長会
4. 部会委員会

第 6 条 理事会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。

1. 規約の決定並びに改正に関すること。
2. 事業計画に関すること。
3. 予算の決定、決算の承認に関すること。
4. 財産および基金の処分に関すること。

- 5. 役員の設定に関する事。
 - 6. 他団体への加入脱退に関する事。
 - 7. この会の解散に関する事。
 - 8. その他必要な事項に関する事。
- 第 7 条 理事会は、理事で構成し、毎年開催する。臨時理事会は、会長が必要と認めるとき、会長が招集する。
- 第 8 条 理事には、会長・副会長・各部会の部長 1 名および理事会で必要と認められた若干名がある。
- 第 9 条 委員会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
- 1. 理事会から委任された事項の審議執行に関する事。
 - 2. 理事会に提出する議案に関する事。
 - 3. 緊急事項の処理に関する事。
- 第 10 条 委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、会長が必要と認めるとき、会長が招集する。
- 第 11 条 委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。
- 第 12 条 部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。
- 第 13 条 委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。
- 第 14 条 理事会・委員会・部長会の会議は、構成員の 2 分の 1 以上の出席で成立する。
- 第 15 条 部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。
- 第 16 条 部会委員会は次の任務権限をもつ。
- 1. 専門的事項について調査研究する。
 - 2. 専門的事項について委員会に提案する。
 - 3. 専門的事項についての業務を執行する。
- 第 17 条 部会委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。
- 第 18 条 部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。
- 第 19 条 部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第 4 章 役 員

- 第 20 条 この会には、次の役員をおく。
- | | | | |
|-----------|-------|------------|-------------|
| 1. 会長 | 1 名 | 2. 副会長 | 5 名 |
| 3. 部長 | 各 1 名 | 4. 副部長 | 若干名 |
| 5. 理事 | | 6. 委員 | 各校 1 名 |
| 7. 会計監査委員 | 3 名 | 8. 幹事 | 若干名 |
| 9. 部会幹事 | 各 1 名 | 10. 校内部会代表 | 各校内の部会各 1 名 |
| 11. 顧問 | | | |
- 第 21 条 役員の仕事権限は、次の通りである。

1. 会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3. 部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4. 副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5. 理事は第6条によりその任を遂行する。
6. 委員は、各校内の意見を代表し、第9条によりその任を遂行する。
7. 会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8. 幹事は、この会の事務を処理する。
9. 部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10. 校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11. 顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条 役員を選出法は、次の通りとする。

1. 会長・副会長・部長・副部長は、理事会で会員の中から推薦し、委員会で承認する。
2. その他の理事は、必要により理事会で推薦し、委員会で承認する。
3. 委員は、各学校から1名選挙する。
4. 会計監査委員は、委員会で互選する。
5. 幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6. 部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7. 校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8. 顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条 役員任期は、2年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。
欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第5章 会 計

第24条 この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。

会費は、毎年5月1日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 雑 則

第 26 条 この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第 27 条 この会の規約を実施するために必要な規定は、別に定める。

第 7 章 附 則

第 28 条 この規約は昭和 23 年 10 月 15 日から実施する。

2. 昭和 61 年 6 月 9 日改正施行する。
3. 平成 2 年 6 月 8 日改正施行する。
4. 平成 7 年 5 月 31 日改正施行する。
5. 平成 23 年 6 月 17 日改正施行する。
6. 平成 24 年 6 月 22 日改正施行する。
7. 令和 元年 5 月 27 日改正施行する。
8. 令和 3 年 11 月 1 日改正施行する。

事務局日誌抄

日付

令和7年	4月1日	令和7年度高教研会員募集について	メールにて送付
	4月3日	令和7年度高教研会員募集に係る振込依頼書の発送	募集案内校へ郵送
	4月24日	新潟県高等学校教育研究会会計監査委員の派遣について（依頼）	メールにて送付
	4月28日	令和7年度の県高等学校教育研究会会計監査の実施	本校応接室にて開催
	5月2日	新潟県学校図書協議会 後援申請回答の送付	メールにて回答
	6月16日	高教研年報64号送付	行政、理事宛に郵送
	6月16日	令和7年度高教研名簿の発送	メールにて送付
	5月30日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団より400,000円の助成	
	6月16日	令和7年度高教研理事会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	6月30日	令和7年度高教研理事会審議結果（報告）	メールにて送付
	7月1日	令和7年度高教研委員会審議	書面開催文書（メールにて送付）
	7月8日	令和7年度高教研委員会審議結果（報告）	メールにて送付
	7月14日	令和7年度高教研部会幹事連絡会に係る資料の送付	幹事業務文書・書類（郵送）
	7月15日	公益財団法人 新潟県教育公務員弘済会より250,000円の助成	
	8月29日	新潟情報教育研究会 後援申請回答の送付	メールにて回答
10月10日		一般財団法人 新潟県教職員厚生財団へ「令和8年度新潟県民のための教育・文化活動」団体助成を申請	郵送により申請
令和8年	1月20日	年度末に係る部会事務処理に関して（依頼）	メールにて送付
	2月15日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団より令和8年の「団体事業助成」承認の通知を受領	
	2月下旬	『高教研年報』第65号の編集作業に着手	
	3月9日	一般財団法人 新潟県教職員厚生財団へ「令和6年度団体助成完了報告書」の送付	郵送により報告
	3月9日	公益財団法人 日本教育公務員弘済会新潟支部へ令和7年度「教育研究団体助成事業報告」の送付	郵送により報告

（文責 県立新潟南高等学校 教頭 齋藤 文比古）

編集後記

令和7年度の高教研の活動をまとめた「高教研年報第65号」をお届けいたします。

今年度は、対面での研究会・講習会・見学会が各地で数多く実施され、現場での学び合いが活発に行われました。実習施設や企業・大学での研修、地域を歩くフィールドワーク、専門家による講演、授業公開や技術交流など、多様な活動が行われ、参加者同士が直接交流しながら専門性を深めることができました。

一方で、オンラインの利点を生かした研究会や協議も継続的に実施されており、対面とオンラインを組み合わせた柔軟な運営が定着しつつあります。遠隔授業の実践共有、オンライン講演、ハイブリッド形式の研究協議、Web会議ツールを活用した委員会運営など、地域や校種を越えて参加しやすい環境が整備され、研究の幅が広がりました。

こうした多様な取組が実現したのは、企画・運営に携わった皆様の御尽力によるものであり、ここに感謝申し上げます。

本会の役割は、変化する教育課題に対応しながら、新たな指導内容や指導方法など教育の専門領域について、会員相互の情報交換や研修を通して研究を深めることにあります。こうした取組の積み重ねによって得られた経験は、本会の研究活動やその成果を充実させるものであり、その重要性は今後ますます高まっていくと考えます。

この年報は全部会の活動を掲載しております。探究的な学習やICTの活用など、多様な取組が深まりを見せる中、自身の取組の参考としていただくとともに、この高教研各部会の取組をより多くの方々にお伝えいただき、高教研会員の裾野がさらに広がっていくことを期待しています。なお、年報は新潟県高等学校教育研究会ホームページにも掲載いたしますので、どうぞ御活用ください。

末筆になりますが、今年度も一般財団法人新潟県教職員厚生財団様及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様から研究費として御支援をいただき、各部会の研究活動を充実させるうえで大きな力となりました。ここに記して御礼申し上げます。

今年度の高教研の運営に御尽力くださった関係の皆様方に感謝申し上げますとともに、本県高等学校の更なる発展を祈念して編集後記といたします。